寄贈 11.1.? 帝國圖書館

京城日報

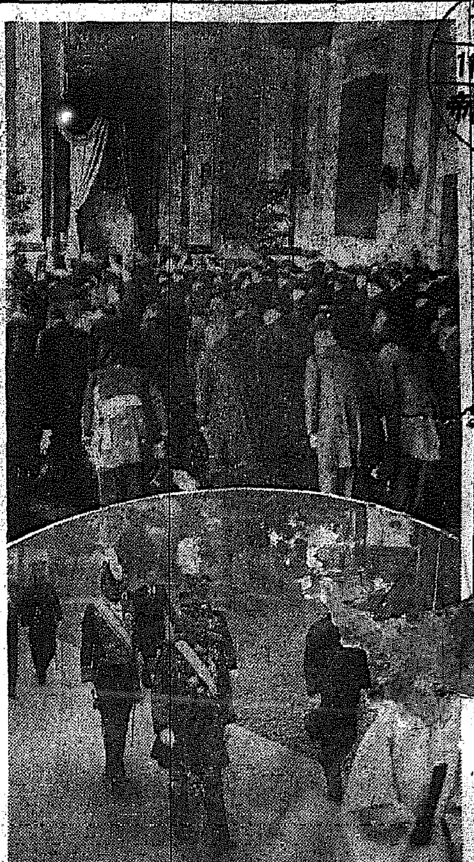
本日十二頁
朝刊

本府の拝賀式

新勳章輝かして 喜びの二重奏

總督府の大ホールを埋めつくして 新春を壽ぐ萬歳の聲滿つ

めでたき昭和聖代第十一年の新春を壽ぐ總督府の新年拝賀式は元日午前十時五十分から第一會議室で擧行された まづ在城各國領事團および外國人は宇垣總督と賀詞を交換、シヤンペンの杯を擧げ、次いで十一時二十分から高等官並に同待遇者、有位有勳者、十一時三十分からは判任官並に同待遇者の拝賀式がそれぞれ嚴かに行はれた 式後參列者全部は大ホールに集合 今井田政務總監、池田警務局長はじめ先日晴れの[illegible]新勳章拝賀の勳章が晴れの胸に輝いて彩[illegible]びの二重奏のうちに、陸軍大將服も凛々しい宇垣總督の音頭で 兩陛下萬歳を三唱して散會した（寫眞は（上）本府の拝賀式と（下）は宇垣總督の朝鮮神宮參拜）



平壤の拝賀式

【平壤電話】平南道廳の新年拝賀式は元日午前十一時から會議室において擧行、安武知事以下全職員揃つて聖壽の萬歳と非常時國家の繁榮を壽ぎ安武知事一場の訓辭を述べた文府廳でも同時に拝賀式、府尹年初の感懷を述べて一同の[illegible]を希望し邦家の萬歳を祝した、この他[illegible]官公署、學校においても夫々同樣拝賀の式が擧げられた

平壤の互禮會

【平壤電話】平壤府の恒例の互禮會は正午三發の花火を合圖に府公會堂に開かれた、參集するもの八百三十五名、一同國歌を合唱し府尹の年頭の挨拶の後開宴、美妓の舞踊などあり萬歳を三唱散會した

今年こそ景氣よく進め

初荷、初賣で賑ふ

◇……今年こそ農村立直りから來た好景氣だ、それに半島特有の鑛山景氣や株高景氣等々、商店街の春景氣はすさまじい

◇……二日は恒例の初荷デー、トラック、リヤーカー、荷車、美しい旗を揃へ、勇ましくも勇ましく京城市內は初荷の波

◇……本町、明治町の商店街は初賣り手拍でお客はギッシリ、今年の幸運を引き當てようとしてゐる

◇……二五九六年の春の景氣行進曲は頗る朗かであつた（寫眞は本社を訪れた初荷の群れ、上は高居自轉車店、下は嶋屋のトラック）

總督官邸の春

元旦・本府の拝賀式を了へたわれらの總督さん・官邸では金ピカ服を和服に着かへて年始の客の祝詞に應へ・今年は小磯軍司令官・三宅第廿師團長ら新顏に・本府各局長・有賀殖銀頭取ら參與と始政廿五周年で敍勳されて旭瑞章たる新しい勳章を輝かしておめでたう（寫眞は宇垣總督・矢野秘書官・村田陸軍御用掛と小磯三宅兩將軍・元日官邸で撮す）

昌慶苑で「スケート」 元日から出來る

昌慶苑は毎年十二月廿九日から翌一月三日迄閉苑することになつてゐるが、李王職では特にスケーターのため元日より三日迄休苑中ではあるが、スケート遊戲者に限り午前十時より午後五時迄春塘池のスケート場を公開することになつた

京城府民の名刺交換會

府民館で行はる

恒例の京城府名刺交換會は元日午後零時半から府民館で開催、參會者二千餘名、大講堂はフロックやモーニングの波が打ち、あちらでもこちらでも『おめでたう』の連發・君が代、皇居遙拜の後京城府民を代表して伊達府尹の年頭の祝辭あり、杯を擧げて皇運の隆昌を祈り萬歳三唱して同一時散會した（寫眞は名刺交換會）

元日の朝、年賀狀 二割增の五百五十萬通だ

出した數も約一割增し

目出度い元日の朝、家族に配られた年賀狀は一體京城府內でどれだけあつたか、京城遞信分掌局について調べてみると、元日の朝四十萬京城府民に配られた賀狀はナント五百五十一萬八千七百二十四通で、昨年の四百六十萬六千二百十七通に比し二割九分八厘の激增、京城郵便局は府內を七十五區に分け、配達從事者三百ヶ八十六人に賀狀を積ませ九十四人の配達夫が午前九時一齊に同局をスタート、戶每に『郵便』の聲も朗かに配つて行つた、一方京城郵便局に押し寄せた引受數は（昨年十二月廿五日から廿九日まで）五百八十九萬九千五百九十一通で、これを前年の五百卅六萬五千六百四十七通に比し約一割の激增であつた

阿部充家翁逝く

東京麻布の自邸で

【東京電話】元本社長阿部充家翁は昨夏熊本に於ける新聞大會に出席、輕い腦溢血に罹り、自來東京麻布三軒家の自邸で靜養中、舊臘からの危篤のまゝ越年したが一日午前三時遂に逝去した、享年七十六 無佛、阿部充家翁は熊本縣出身國民新聞創立當時副社長となり大正三年秋、本社副社長として來任、併合後の思想變動期に處して專ら內鮮融和につとめ、大正七年再び國民新聞副社長となり同十二年退社、爾後朝鮮中央協會を創立して朝鮮問題の關心を昂め又在留朝鮮人學生の世話をするなど朝鮮の陰の盡力者として殊に朝鮮人間に信望を集め、京城東小門外に無佛庵などを贈られた、子息二人の中長男猛氏は現に殖銀勤務中である（寫眞は故阿部充家翁）

小宮三保松翁

元李王職次官小宮三保松翁は、逗子町の別莊で病氣靜養中、去月廿九日逝去、葬儀は四日鶴見總持寺で執行する享年七十八 氏は山口縣士族小宮久左衞門氏の長男、安政六年五月の生れ、東大法科卒業後歐洲留學を命ぜられ、明治廿三年檢事に任じ、貴族院、樞密院各書記官を歷任し一時職を辭したが再び仕官、明治卅二年東京控訴院、大審院檢事に歷任し、同四十年來鮮、統監府參事官に轉じついで李王職次官に任ぜられた、退鮮後は錦鷄間祗候であつた

◇酒井甚太郎氏（帝國地方行政學會朝鮮本部長酒井與三吉氏令兄群馬銀行頭取）一日午後四時石川縣鶴來町の自邸に於て逝去、葬儀は四日午前十時同地寺院に於て執行

屠蘇の夢を破つて 授恩洞の元日強盜

洋服屋に入つた泥棒居直り お手柄の鍾路署員忽ち捕ふ

〃御目出度う〃の言葉も賑しく天地共に朗らかな喜びの一色に包まれ晴やかに更けゆく元旦の夜、京城授恩洞一帶は突如起つた強盜の聲に屠蘇の夢を破られたが、當局の敏捷な活動によつて犯人は間もなく逮捕された

外出先から歸つた 主人を脅かし

〃強盜々々〃で逃げ出す

二日午前零時二十分京城鍾路署では歲末警戒陣をそのまゝ年始警戒に繰越し視密をよそに緊張警戒線を張り、同署非番巡査手島獻君が私服のまゝで授恩洞大通りを通行中、團成社前路上にオーバー一枚が遺留してあるのを發見、通行人をして鍾路三丁目派出所へ屆けさせ、自分は附近の樣子をそれとなくさぐつてゐると、突然背後から強盜々々の聲と共に約十五間先の暗の中を脱兎の如く逃げゆく怪しい人影に、スワとばかり追跡、大格鬪の末つひに引捕へた、取調べの結果、仁川府栗木里七七韓鼎獸（二三）で、同夜零時十分頃授恩洞一七一洋服商下岡林氏方へ侵入、金品を物色ミシン機械時價百五十圓一臺を盜み出し、更に同家の西洋鋏一挺を持つて家人の歸宅を待伏せてゐると、主人卞氏が外出から歸宅、電燈をひねらんとするや突然背後からおどり出し、西洋鋏をつきつけて〃俺は女のために金がいるんだ二百圓出せ〃と脅迫、格鬪となつたが、主人が強盜々々と連呼するのでそのまゝ逃走中であつた事を自白した、同署では直に附近を搜査し兇器に用ひた西洋鋏を同家から約十間離れた路上で發見、證據品としてミシン機械と共に押收、目下取調中である

警戒緊張の賜 永井司法主任談

元日の夜の強盜事件は幾數年間ありませんでした、しかも直に捕まつた事は何より幸ひでした これは全署員がよく協力し致しました 正月にも警戒陣をゆるめず、そのまゝ年始警戒に當り、非番巡査も心からやつてゐてくれた結果と思ひ感謝してゐます

殊勳の李巡査

殊勳の李巡査は格鬪の際に剝がれたオーバーを持つて語る 殊勳なんて恥かしい話です、お正月にも署長以下各幹部が出られ、年始だとて吾等は遊んではならぬよく警戒に當れといはれるので、非番でありましたがぢいーツとして居られず、私服で管內を巡視中、突然強盜々々の聲がすると共に前方へ怪しい奴が逃げるので捕へたまでです

三千五百圓の公金を橫領逃走

平北龍川郡廳では郡書記[illegible]が公金三千五百圓を橫領、行方をくらました事を同郡から平北警察部に手配して行方搜査中だが、京城府內に潛入した形跡があり二日府內各署へ手配があつた、同犯人の背後には思想關係があるらしい

本府圖書館は四日開館

年末年始定期休館中の京城南大門通り總督府圖書館は四日午前十時から開館する

城大アイスホッケーに優勝す

高校競技は成城優勝

【日光細尾電話】第六回全國高等學校氷上競技大會並に第一回帝大氷上ホッケー大會第三日目は一日午前七時より日光細尾リンクで擧行、氣溫は晴れた天候も稍直し引續き快晴無風、氣溫零下三度、結氷狀態も良好でコンデイションは上乘、先づ高校スピード・レース三種目を行つたが二千米リレーに新記錄が樹立され成城高校が四十七點の大量得點を收めて優勝し、次いで氷上ホッケーも北海道帝大豫科の善戰を押へてこれ又成城に凱歌が擧がり、茲に三日間に亙る氷上ホッケー二日目に優勝せる成城高校が綜合選手權を連續獲得、フイギュアは學習院の優勝となり、五帝大氷上ホッケーは從來の京城帝大を破つて優勝、午後零時二十分閉會式を擧げ夫々優勝トロフイを授與され無事大會の幕を閉じた、成績左の如し

▲スピード

千五百米（オープン・コース）1松平（成城）二分一五秒2鈴木（成城）二分一五秒八3光畑（松本）二分一八秒八

五千米（オープン・コース）1鈴木（成城）一一分四四秒2蒲內（二高）一一分四四秒二3古澤（成城）一一分四九秒

二千米リレー（セパレート・コース）1成城（笹石、松平、宗石、鈴木）三分五九秒四（高校新記錄）2松本（杉田、金丸、岡村、光畑）三分五九秒六（高校新記錄）3二高（保、濱田、久坂、蒲內）四分一四秒二

▲高校ホッケー決勝戰 成城1（0—0、1—0、0—0）0北大豫科

▲五帝大ホッケー決勝戰 京城5（1—0、3—0、1—0）0京都

內台連絡機 台北發初上り

【台北二日發同盟】內臺連絡定期初上り旅客機フォッカー3Mかりがね號は大森飛行士操縱、竹藤北日日、許新民報の兩記者を乘せて二日午前九時五分（內地時間十時五分）臺北飛行場發、一路那覇に向つた

光州の火事

【光州電話】一日午前四時卅分光州本町四の四六カフェー銀河のホールから發火、ホールの內部を燒き鎭火した、原因はストーブの取扱ひ不注意からと判明

平壤支局の別府ゆき出發

【平壤電話】本社平壤支局主催、西鮮旅行俱樂部後援の別府觀察旅行團一行二十餘名は一日午後三時十三分發列車で多數の見送りを受け花々しく出發した、一行は三日午前一時十五分別府着、三日より六日まで四日間別府に滯在、同地附近の名勝を探り或は溫泉に浸り、六日午後六時別府發八日午前一時四十分歸鄕解散の豫定

大邱支局の別府ゆき盛況

【大邱電話】本社大邱支局主催別府溫泉觀察旅行團は、人氣もよく遠く京城、湖南地方からも參加者があり、豫定人員を遙かに超過する盛況で元日午後六時半頃全員が大邱驛頭に勢力揃ひして平田支局長引率の下に同六時五十六分發の列車で驛頭より社旗を翻へせつゝ勢ひよく出發した

人

◇今井田政務總監 夫人、令孃同伴、一日夜十時半發京城、溫泉へ、六日ごろ歸城の豫定

謹賀新年

歲華改まりて瑞雲遙に東天海上に靉びき畏くも
上皇室彌榮えまし皇威八紘に輝き國運隆昌の昭和十一年新春を迎へ洵に御同慶至極に奉存上候 弊店も 御蔭を以て逐年業務の進展と躍進に依り豫想外の盛況を得たるは之偏に御愛用家各位の深甚なる御厚情の賜に外ならず誠に感激に堪へず謹んで御禮申上候 昨秋奉天 工場の竣成と相俟つて本年は一層製品の向上と營業の改善に努力致し更に一段と鮮滿に雄飛致度覺悟に御座候間何卒倍舊の御引立賜り度伏て奉願候 謹言

昭和十一年元日

嶋屋釀造所

京城・奉天

祐

キッコーユウ醤油

好況は續かうが油斷は大敵だ
悲境に際しての用意を望む
殖產局長　穗積眞六郎

瑞祥に充つる昭和十一年の新春を迎へ恭しく　聖壽の長久を壽ぎ奉り　皇室の御彌榮と隆々たる國運の進展とを慶祝し奉ることは欣幸に堪へぬ處である

茲に 一部南鮮地方の旱害及西北鮮の冷害に因り打擊を受けたる所もあるが、農村振興運動の進展と農產物價高の影響等に依り昨年の產業及經濟界は一昨年に比し一段と好調裡に越年し得たことは慶賀に堪へぬ所である

先づ工業界を顧みるに農林、水產、鑛山方面の豐富なる各種資源の開發に依る各種工業原料と低廉なる動力及勞力の利用は前年に引續く滿洲貿易の增進、農村に於る購買力の增進、金利低下及物價昂騰と相俟つて著しく工業の發展を促進せしめ、又紡織、製紙、精糖、硬質陶器、琺瑯鐵器、セメント、製粉、硬安硬化油、金屬、精練の諸工業は鮮內需要增加及支那南洋方面を主なる市場とする外國貿易の進展に著しき活況を呈し紡績、セメント、マグネシウム、油肥、石鹼、大豆工業、パルプ、石油精製、火藥等

各種 の大規模工場增設、擴張或は新設せらるゝに至り人絹染色、電球製造等の中小工業勃興し又在來の小規模工業、家內工業品の品質は漸次改善されて行き昭和十年の工產額は恐らく五億圓を突破する新記錄を見ることは推察に難くない、而して滿洲國の政治工作、經濟工作の進展、日滿新交通路の開通に依り滿洲に對する經濟進出上朝鮮の有利なる地理的條件を認め、或は朝鮮に於ける各種工業資源の開發と有利なる勞働條件に着目し內外の投資家、企業家にして鮮內に事業を目ろむものは益々增加の傾向を辿つて來た

次に 客年中に於ける貿易狀況を觀るに輸移出入額は其の十一月迄に既に十億を突破し、九年に於る全年に對し實に約一割の增加を呈するに至つた、十年の總貿易額は恐らく十二億圓に達したものと思はれるが之亦新記錄である、其中地理的經濟的に最も密接の關係に在る對滿貿易は十一月迄の外國貿易總額一億五千萬圓中一億百萬圓と其の七割を占め、之を前年同期に比すれば輸出に於て二百七十萬圓、輸入に於て百五十萬圓の增加である、其の內容を見るに輸出に於いてはセメント、鐵材料、木材、米、麥粉、鮮乾鹽魚、砂糖、綿糸布、纖維生產を主なるものとし、輸入は粟及其の他の穀類、木材、豆粕、石炭等が主なるものである、同國治安及經濟工作の進展に因る民衆の購買力の增進に伴ひ對滿貿易は更に增進するであらう

對支 貿易を見るに從來の排日排日貨運動は漸次緩和せられ、從つて貿易上頗る好調を辿つて來たが昨秋幣制改革の斷行及上海に於ける邦人に對する不穩事件等續發し、流言蜚語行はれ商取引は一時停頓狀態を呈し、又北支自治問題等勃發し人心安定を缺ぎたる等により幾分の影響を蒙つたが總じて好況を呈し其の貿易額は十一月迄に千七百萬圓と未だ曾て見ない數字を示して居る、北支の自治問題が圓滿に進展すれば對北支貿易は勿論のこと對全支貿易額は本年も增加するものと思ふ、其の他南洋、印度、阿弗利加、中央亞細亞方面に於る新販路の開拓に依る琺瑯鐵器、硬質陶器等の輸出及歐米向電球輸出の好況は注目に値する

對滿 貿易を除く對外貿易は多く內地に於ける貿易圈を通して爲されて來て居るが、朝鮮の對外貿易を發展せしむる爲には朝鮮に寄港する外國航路船の效果的利用と有力なる貿易商の出現と言ふとが最も必要である、更に對內地貿易は年々非常の躍進を爲し移出に在りては米は總額の約半に近く軍需工業其他の需要增加に因り鋼は記錄的の好調を告げ、鰮は未曾有の豐漁に加へ價格の騰貴に因り魚油及搾粕は著しく出增しし移入の好況は穀價の騰貴に依る一般購買力の增進、及北鮮に於ける新興工業の勃興に因り機械其他建築事業材料の激增に由因するものと思はれるが、斯る一般的增進に反し籾移入の減少を見たるは鮮內工場の新設及既設工場增產と一方絹織物類（人絹織物を含む）移入の著增から見ても嗜好が人絹に轉じて來てゐる爲と

鮮內 商業界亦一般に好況を呈し物價は騰勢を持續し米穀取引所も米穀統制法の施行に依然たるも前年の不作況を受け、夏期の天候變動に基く不作豫想から相場の動搖激しく十一月迄の取引高は三千七百五十萬石前年に比し二百萬石餘の增加を示し證券界は一般經濟界の好景氣を如實に反映して近年稀なる活況を呈し其の出來高は十一月迄に二百六十四萬株と大正十年京取時代の最盛期に次ぐ記錄を示し、又內地の有力なる證券現物商の進出を見るに至り、朝鮮銀行券の發行高は十二月上旬末に於て二億九百萬圓と言ふ同行發行高の最高記錄を示して居る

朝鮮 に於ける工業的生產及輸出貿易の進展に連れ昨年朝鮮に新しく課せられた問題として內鮮を通じての生產及輸出の統制問題は本年は勿論今後暫く續くものと覺悟せねばならぬが、我國全體の經濟界の補助を撤廢し內鮮官民相呼應して連絡協調し內地、外地の統制ある經濟の發展に努力すべきは論を俟たぬ所である、從て現在鮮內に於ける生產者及將來朝鮮に於て企業せんとする向は常に此の問題を念頭に置いて頂きたいのである、殊に輸出統制の如き內鮮共の扱を異にするに於ては、世界資源の的になつて居る我國全體の輸出貿易の將來に甚大なる惡影響を齎すものと一般は知悉せねばならぬ

數年 來異常の發展を呈した朝鮮鑛業界は昭和九年下期に至り漸平調を來すのではないかと懸念せられたが昭和十年に於ても依然殷賑は好調を跨け鑛業出願件數は一萬件を突破し、新に事業を開始した鑛山數は實に一千を算するの狀況で何れも前年に比し著しく其の數を增加して居る、產金高は未だ明でないが各製鍊所に於ける生產高は前年に比して數百萬圓を增加し、金鑛石の內地移出亦殆んど倍加せるを以て產金額は少くとも五千萬圓を下らないものと豫想され、其他黑鉛の市價昂騰、鐵鑛及石炭の需要增加或は明礬石、マグネサイト、高嶺土等新規なる事業の振興等に因り鑛產額は將に一億圓に達すべく

更に 昭和十年に於ては永年の懸案である無煙炭鑛合同の大部分を完成して無煙炭田開發上劃期的基礎を確立し、或は懸越炭田再化利用は其の緒に就き久しく待望せられた二陟炭田亦開發の計畫成り殆ど睡眠の狀態に置かれた東海岸地方產業興起の曙光を見るに至つた如きは特筆に値すべく、之等朝鮮鑛業界の實情は益々鑛物資源に對する一般の認識を深むるに至り、且事業は愈よ堅實合理化せられる傾向にあつて朝鮮鑛業の前途は眞に洋々たるものがあると言ふべきである

次に 水產業界を回顧するに前年來の好景氣に恵まれ一般產業と共に至極順調な進展を示し、其の生產總額の如きは未だ之を得て居ないが去る昭和九年の一億圓突破の記錄を凌いだであらうことは充分推察し得る、先づ各地の漁況を概觀すると春季以來沿海一帶に暖流の勢力が絕大であつた爲可成り漁況に變調を來し、西部沿岸の〃ぐち〃及び南部沿岸の〃さば〃の如き魚群の密集少く業者は一般に不漁を喞つたのであるが

反面 には之が爲漁場の探索に全力を擧げた結果、從來南部沿海に限られて居たる〃さば〃巾着網漁業は全南西部大黑山島近海に好漁場を發見し、更に全北、忠南沿海に迄も進出する氣運を釀成するに至り何れ各漁業が漁閑であり且斯くも廣大な漁場に操業することが初めてのことである爲業者間に相當豫期の差の生じたことは已むを得ないことであつて、將來に向つて大なる期待を持つものである

之に 反し東部沿海の〃いわし〃漁業は實に未曾有の豐漁を示し、大略八百餘萬貫の水揚は下るまいと推定せられ昭和九年の四百萬貫に比ぶれば實に二倍の漁獲である、而して斯の如き多量の漁獲物が殺到依然として良値を保持し得て居ることは其の製品である油肥、鹽乾物、罐詰及鑛製品が內地其他の外地（滿洲を除いては一旦內地に集中せらる）に販路を求めて居るのに拘らず、朝鮮に次ぐ〃いわし〃の主產地である北海道の漁獲高が激減した爲內地に集中される製品の數量に變動の少かつたことに由るものであつて、朝鮮の業者に取つては寔に多幸なことであつた、なほ

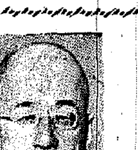
從來 試驗的時代にあつた黃海の〃さわら〃流網漁業及慶尙南道沿海州沖合の機船底曳網漁業も愈よ安定した觀があり、其の出漁船數前者は約九十隻（朝鮮漁船は半數）で後者は約五十隻であつて、春季及冬季には相當の活動を見るが本年下半期からは愈よ三百噸級の遠洋漁業保護指導船が之等出漁船の指導の任を帶びて出現することとなつたから、更に一段の活氣を見ることであらう次に養殖漁業は是亦〃のり〃を筆頭として〃かき〃〃あさり〃〃はまぐり〃等干潟地の利用の方面は勿論、本府水產試驗場の努力に依る淡水養殖事業も相當旺盛となりつゝある、又

製造 業に就て觀るに前述の〃いわし〃を原料とする諸製造業の殷盛を極めたことは謂ふに及ばず〃いわし〃罐詰業者が前年の不評に鑑みて製造設備を改善すると共に、優良品の產出を企圖した結果品質は著しく向上し數量も增加して來た、此等製造業の進展は對外水產貿易の發達を誘致して益々海外市場に於ける地步を確立し、殊に昭和十年度から滿洲市場の獲得を目的として開始した鹽乾品出荷奨勵補助は業者に異常の刺戟を與へ其の組成に依つて統制ある輸出を爲して居る、其の效果に就ては今直に之を論じ得ないが、鹽乾鰮の開拓に依る與地交通の發達と相俟つて將來に期待せられる所大なるものがある

終に 沿岸漁村は年來の好漁況に依る潤ひと漁民の自覺に基く更生運動とに依り漸く生氣を示して來たやうで欣ばしき限りであるが、漁況は時の移ると共に變化を來すものであるから今にして他日に備へる用意を怠らず、常に緊張した精神を以て努力を續けることは將來の繁榮を增進せしめる所以であらうと思ふ

以上 の如く朝鮮の產業及經濟界は各般に亘り頗る好況裡に始政第一の四半世紀の幕を閉ぢたことは同慶の至りであるが、農村の經濟更生運動は一段と其の拍車を掛けて邁進すべく、內外人士の朝鮮に對する認識は各種產業の長足進步となるものと豫想され、經濟界全般の情勢を見るに目下の處大した惡材料も見當らないので、意外の突發事件の起らぬ限り本年も躍進的好況は兎に角としても、昨年度の好況は續くものと見て大過なきものと想像されるが、油斷は大敵である、好況に狎れ漫然に流れて豫想外の突發事件に遭遇し收拾すべからざる混亂狀態に陷ることなき樣、好調時に於て經營の合理化を計り內容の充實に努むる等非常時に處しての用意を望んで已まぬ次第である

年頭の辭
拓務大臣伯爵　兒玉秀雄



昭和 第十一春を迎ふるに方り一億の同胞と共に謹みて　聖壽の萬歲を壽ぎ奉り、皇室の御繁榮を祝し奉る、顧みれば客年十一月義宮正仁親王殿下御誕生あらせられ同十二月には皇弟澄宮殿下の御成年式が擧げさせられ、新たに三直宮家御創立の御事を拜し皇土の民草齊しく竹の園生の御繁榮を御慶祝申上げた所である、惟ふに皇室の御繁榮はとりも直さず國家の繁榮であり、國祚の隆なること天壤と共に窮りなく、國運の前途又暇々として躍進を續けつゝあることは同慶に堪へない次第である

方今 世界の情勢を觀るに外にありては伊エ戰爭を繞る列强の葛藤依然として解決の緒に就かず、又隣邦の北支問題を初め幾多の諸問題何れも猶未だその歸趨測る可からざるの狀態にあり、內に於ても凶作、災害その他幾多の難問題山積し未だ非常時局を脫し得ざるの現狀にある、斯る非常時局に際し獨り朝

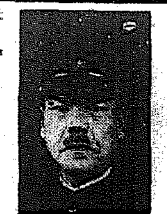
かなる春を迎へんとする朝鮮は、山はいよ/\綠に、水は洋々として流れ、鮮民全くその堵に安んじてゐる、この瑞氣の滿ち充ちたる半島の光景を見て、世界いづれの人かこれを羨まないものがあるであらうか

殊に 朝鮮に於ける經濟の狀況は最近著しく好調を呈し、農產物の增收と云ひ文化の向上進步と云ひ、朝鮮上下の不斷の努力は各方面に現れ、來る可き新年に於ては更に平和であり、幸福である生活を樂しむ事が出來ると思ふので寔に欣ましい

さを超越して、國家の爲め慶賀の至りに堪へない。現に來年度の豫算に於ても朝鮮は內地の歲計を援助する意味に於て、精神的にも物質的にも多大の助成をなしたと云ふ事は如何に內鮮間の融和、外地と內地との政治關係が

圓滑 に進んで居るかを如實に物語るものであつて、歐米に於ける列强がこの事實を見て更に一層羨ましく思ふだらうし、又朝鮮自體と內地との關係が如何に圓滑に結ばれてゐるかと云ふ事に對して謳歌を呈するに吝ならざるものがある事を確信してゐる。希くは朝鮮に於ける各位はこの政治的經濟上の好調に乘じて益々向上發展の一路に邁進せむ事を望んで已まない、新年の初めに方つて一言祝辭を申し述べる

先づ東洋平和の確立を期せざる可らず
朝鮮軍司令官　小磯國昭



皇紀二千五百九十六年の新春を迎ふるに方り謹みて皇室の彌榮を壽ぎ奉ると共に國運の彌々隆盛ならんことを祈る

惟ふ に皇威八紘に輝き國運年を逐ふて隆昌を加へ、躍現滿洲國亦年と共に其の堅實性を增し其の嚴然たる存在と三千萬民衆の慶福とは、北支民衆を驅つて日滿支の提携を叫ばしめ、昨冬民意に基く北支政權の設立を見る運に立ち至らしめたるは東亞三國の共存共榮上一曙光を認めたるものと謂ふべく、天業恢弘の具現と東亞永遠の安定を祈念する九千萬同胞の齊しく慶祝措く能はざる所にして、此の邦運日本の發展を約する時恰か昭和聖代に生を享くるの幸福を感謝せざる者あらん

然り と雖も帝國內外の情勢を洞察せんか益新なると共に其の前途益々多事多難にして、吾人をして愈よ非常時に際會せるの思ひを深からしむるものあり、即ち國內に在りては滿洲事變を契機として覺醒せられたる皇國固有の日本道も未だ以て透徹を缺くものあると共に、擧國一致の緊張は近時聊もすれば弛緩の兆を見んとし他方對外關係未だ正道に復歸せずして隣邦支那は

我が 眞意を諒解せず、其の舊態の以夷制夷政策、歐米依存の思想を放棄するに至らず、加之海軍々縮會議に伴ふ國際政局の變轉は遽に逆睹し難く、皇國日本の躍進に伴ふ國際的重壓は益々倍加し其の前途樂觀を許さざるものあり

然れ ども斯の如きは是れ皇國日本飛躍の象徵にして、前途に光明を顯現せんが爲我等吾人の經過せる所たり、而して此の難關を突破せんが爲には吾人は宜しく我が國內外の大勢を諦觀し、國難の由て來る所以と其の本質とを究明すると共に、皇國の大使命たる天業恢弘の皇謨を十二分に認識把握し

不撓 不屈小異を捨てゝ大同に就き擧國一致克く國民的試煉に堪へ萬難を排除して八紘一宇六合一都の建國遂行に邁進するの決意と自信力とを以て、先づ東洋平和の確立を期せざるべからず

顧て 我が朝鮮の事態を考察するに滿洲事變以來義勇奉公軍民一如の精神は勃然として半島の隨所に躍動し、軍事に內治に產業に正に躍進日本の先驅者たるの壯觀を呈示し來れり、是蓋し時艱突破の要素たらずんばあらず是に於てか吾人在鮮同胞須く更に身自ら天業恢弘の先驅者たるの認識を新にし、內鮮を問はず上下を論ぜず一德一心渾然一體となりて步武堂々世界皇化の遂行に邁進するの覺悟を堅持し、以て日韓合邦の　聖旨に副ひ奉るべきなり

茲に 在鮮第一年東風徐ろに梅柳の地を吹散し一夜に天下の春暉を回現するに方り、聊か所懷を述べて新年の辭と爲す

元寇（135）
藤井眞澄 作　齋藤五百枝 畫

對馬の元寇（五）

宗ノ助國の家人小太郎と兵衞次郎の二人は、母國へ急を報ずる大事な使命を負はされて、無念の涙をのみながらも第一線を退いた。

小太郎は去年の春、洛北の鞍馬山中に於いて、源三郎と出會ひ劒を語り合ふた若侍。兵衞次郎は三年前、今津にあらはれた笑ひ上戸のつぼら、今年五十八の老侍である。小太郎は京鎌倉を遍つて來た若い新知識、兵衞次郎は蒙古まで行つた老練家といふので、わざ/\この大任を負はされたのであらう。

西海岸は已に敵勢が充滿してゐるらしいから、どうしても東海岸の嶮原へ落ちのび、そこから早船で筑紫へ渡らねばならない。

だが、海岸の丘と後ろの山をつなぐ野道へかゝつた時、佐須川の右岸に上陸した敵兵の一隊に、見つけられ、さんざ/\に射かけられ、二人とも血まみれに傷つき、二匹とも馬を倒されてしまつた。

命から/\、右手の林の繁みに逃げこみ、やつと急迫を避けた時は、兩人ながら負傷と疲勞で、精も根もつきはてゝゐた。

「おい小太郎、わしはもう身體がしびれて動けない。お前一人落ちのびて、この使命をまつたうしてくれい」

「お、お前もか、わしも起きあがる力さへなくなつた……」

「蒙古の矢には毒があるので、それで身體が利かなくなつたのだ。せめて馬でもあれば、背にしがみついてでも落ちのびるぢやが、あゝ無念、むねん……」

「しッ、しづかに――。」足音がする……ついそこまで追つかけて來た……」

「……もうこれまでぢや。小太郎よ、嬲り殺しの恥をかからうより、差しちがへて果てようではないか。まだその位の力は殘つてゐよう」

「よし。それ、誰の音が近づく。早う」

小太郎と兵衞次郎、右手に脇差を拔いて膝行りより、左手をしつかと握り合つた。

「ヤア、待つた/\」

突如、草葉の向ふから聲をかけながら、ガサ/\と出て來たのは髭松塔二郎である。

「ヤッ、お前は……」

「さア、元氣をふきかへして下されい。そこまで馬を二頭曳いて來ましたぢや。さいぜんから戰ひの樣子は、そこの林の陰から見てゐました。早く殿腕まで落ちて、此國へ急を告げて下されい」

この言葉で、二人は新しい生命の力をもりかへした。

「うむ、有難うござる」

「かたじけなうござる」

「後は私共が引受けました。加賀孫太郎殿と、江井源三郎殿の二人が、今、太刀打早業の妙をあらはして、蒙古の奴等を防ぎとめてゐなさる。その間に少しも早う、兵衞次郎殿は右の肩を、しつかりとおつかみなされい。よいか、馬の處までお連れする」

「おゝさうか/\」

「ぢやが、塔二郎殿、その馬を我等が取つたら貴殿方が落ちることが出來ますまい」

「なんの/\……」

塔二郎は、兩人の手首を左右の肩に支へて、そろり/\と行きながら、元氣さうにいふのである。

「わし共は晝の間は山奥に身を潛してな、夜になつたら、こつそりと海へ忍び出て、仕事をやりますのぢや」

「夜、海に出ての仕事とは……」

「この塔二郎は水潛りの名人でござる。あの賊船の底へ潛りこんで舟板をへぎとり、穴を開けて廻るのが仕事ぢや。直ぐと沈めるまでにははかどるまいが、筑紫へ行つて軍の戰でも始める頃、遷しい遷し方でもしようもんなら、う、ふ、ふゝゝゝ。その小さい穴がものをいひますのぢや、ものをな……」

南原學校組合 管理者 井上漫

南原警察署 署員一同

南原金融組合 職員一同

南原商工會長 細野元助

南原驛長 張鳳儀

南原保線區長 和田山賢吉

南原 道立南原醫院

南原郵便局 局員一同

南原砂防事務所

南原郡廳 職員一同

朝鮮殖產銀行南原支店長 三上吉隆

南原郡 公立學校職員一同

南原米穀商組合

南原邑會議員 竹田林太郎

帶方金融組合

南原 生そば だるま庵 だるま京菓子部

南原邑職員一同

菊水旅館

須々木組 南原出張所

南原稅務署 署員一同

榮山浦 黑住農場

榮山浦 小河內浩一

榮山浦產業組合 組合長 石田嘉太次

榮山浦東山農事 小笠原義之

榮山浦治水事務所 職員一同

大興電氣會社 榮山浦出張所

榮山浦面長 李圭逢

榮山浦 全南自動車株式會社

榮山浦 消防組 水防團

榮山浦 米穀肥料 森崎商店

榮山浦郵便所長 古藤孫作

榮山浦駐在所長 谷口豐彦

漣川郡官仁面射亭里 共榮金礦事務所

京城地方法院漣川出張所 永澤有喜 電話七番

京元線漣川 株式會社 興產社 電話二五番

漣川公立尋常高等小學校 職員一同

漣川郡廳職員一同

京畿道漣川 松浦忠三郎 電話一六番

漣川繁榮會長 洪顯庠

京畿道漣川 御旅館 筑紫館 電話一三番

漣川郵便所 金謙洙

京畿道漣川 京畿道蠶業講習所 職員一同

京畿道漣川 小宮山辰也

漣川金融組合 理事 川原利夫

漣川警察署 首藤胖

漣川自動車部 道會議員 朴昌烈 電話二一番

榮山浦[illegible] 德方藤一郎

榮山浦 米穀肥料 阿部商店

榮山浦小學校 實科女學校

榮山浦學校組合 管理者 大塚一郎

榮山浦東拓會社出張所 所長 小貫光雄

京畿道蠶業生產組合漣川支部（イロハ順） 雨宮富重 古園甚作 木村義三郎

漣川釀造株式會社 電話一四番

漣川在鄉軍人分會長 漣川消防組頭 漣川水防團長 上村重兵衞

京畿道漣川 谷勇助

京畿道漣川 清木祐祐

京城專賣支局漣川販賣所 今野長治郎 電話一〇番

漣川公立普通學校 職員一同 電話一七番

京畿道漣川 郡會議員 服部正

謹賀新年

水原城外 料理 富司亭 電話一四番
水原郵便局長 佐々木繁雄 電話三番
水原驛前 ☒精米所 寺澤捨三郎 電話一三五番
水原門外 株式會社 第一社 電話一一〇番
漢城銀行水原支店長 金炳熙 電話一七三番
水原驛前 土木建築請負業 賴岡組 電話一二二番
水原佛教各宗會
水原邑山樓里 株式會社 水原劇場 電話四二番
水原邑山樓里 水原印刷株式會社 電話一二六番
水原門外 森山寫眞館 電話一二九番
水原病院長 京畿道會議員 申鉉益 電話一六七番
京畿道會議員 水原邑會議員 崔在燁
水原邑會議員 梁奎龍 電話一六九番
京畿道水原 近藤印刷所 電話一七一番

水原邑
京畿道立水原醫院 院長 三木榮
水原警察署長 藤田乙治郎
建築和洋家具室内裝飾請負 佐藤工務所 佐藤芳太郎 水原邑南昌里
京畿道會議員 申鉉泰 利川邑
龍仁郡廳 電話六番
龍仁郡水餘面金良場里 大藤久
京畿道龍仁 海東釀造場 趙斌行 電話一八番
水原物産商會 青木一夫 電話四十八番
水原驛前 巴商會 電話一四三番
水原南門外四街里 水原紙物舖 主 尹明烈 電話五二番
京畿道水原郡水原邑 東一印刷所 電話一〇〇番
小學校組合 管理者 近藤虎之助
水原邑豐邑町 豐昌理髮館 主 吳善周
水原稅務署 職員一同 外
京畿道水原郡水原邑南水里一八四番地 華城興産株式會社 取締役社長 宋秉說 常務取締役 趙演敦
水原邑梅山里 光美理髮館 主 洪潤植
朝鮮水原南門外 濟生堂大藥房 電話一七九番 振替京城一一七三番

水原本町 不二屋百貨店 電話一三七番
水原 烏山公立普通學校長 江藤良人
水原金融組合 組合長 李光鉉 理事 赤木直枝
水原城内 食料雜貨 中原商店 電話一二八番
水原大道通り 一般貨物自動車運送業 青木商會運送部 青木爲一 電話一二〇番
水原金曜會
水原醫師會
水原土木管區 職員一同
水原邑山樓里 水原釀造株式會社 電話一二四番
水原郡南門外四角里 中華料理 同興樓 電話一二六番
京釜線水原南大門通り 印章名刺美術刻 官公署用諸印刷 時計月賦販賣 天寶堂印舖 主 成榮福
水原驛前 精米所 營業主 井川好太郎 電話一二四番
水原門外 旭カフェー 電話一二九番
水原梁合病院長 李完善 電話一一七番
龍仁稅務署長
龍仁金融組合 理事 宗文雄 電話五番
京畿道龍仁郡邑内 東美自轉車店 主 朴基東
龍仁郡器興公立普通學校 校長 伊藤伍郎 外職員一同
水原山樓里富國園隣 仁川旅館 劉道相
水原城内 菜地洋服店 菜地治

水原邑宮町 石炭薪炭 宮崎商店 電話一五九番 振替京城七八七六番
水原本町 ロンブ號自轉車發賣元 山崎自轉車商會 電話二五四番
京城地方法院所屬 司法書士 趙英九 水原邑南水里一七三番地 電話二七六番 振替京城二四二三五番
朝鮮京釜線水原南門外 米穀雜穀粉商 ⊕金德商會 電話二六八番 電略(キ)又ハ(キン)
水原驛前 朝鮮京東鐵道株式會社 電話五二番
水原消防組頭 青木爲一
烏山消防組頭 近澤馬吉
發安消防組頭 佐阪才吉
餅店消防組頭 岡朝雄
安龍消防組頭 桐畑辰藏
沙江消防組頭 樫木要人
水原郡廳
水原郡農會
京畿道水原郡水原邑山樓里 共濟無盡株式會社 水原支店 電話三〇五番
朝鮮總督府農事試驗場 高等官一同
水原高等農林學校 高等官一同
朝鮮總督府農事試驗場 蠶糸部高等官一同
水原郡台章面仁溪里七四〇ノ一 朝鮮麴子株式會社 水原支店
朝鮮水原城外 株式會社 富國園
水原齒科醫師會(イロハ順) 仲町 李昌鎔齒科醫院 驛前 芋田齒科醫院 本町 兒玉齒科醫院 鍾路 鍾路齒科醫院
朝鮮水原驛前 朝鮮運送株式會社水原出張所 主任 寺澤捨三郎 電話五四・一四八番
京城電氣株式會社 水原支店 電話一六三・四九番

大田府春日町一 鶏卵鑵詰製造元 杉光鶏月
大田府本町一 鈴木書店
大田府春日町一 柔道教授 整骨專門 西田道場
大田府春日町一 菓子 寶來堂
大田府春日町一 小間物雜貨商 指方豐榮堂
大田府春日町一 瀧川商會支店 電話三五番
大田府榮町一 稻永酒店
大田府榮町一 魚商 王丸商店
大田府本町一 魚商 岡本仁作 電話一二二番
大田府榮町一 雜貨薪炭 肥後屋
大田府本町一 齋藤金物店
大田驛前 驛辨 菊水
大田驛賣店 牛屋正雄
大田府本町一 三協商會支店
大田 小野自動車部 電話七番
大田府春日町一 薪炭商 岡金太郎商店 電話二〇一番
大田驛前通り 土井洋服店 土井福一
大田府春日町一 和洋家具店 伊東屋 河野郡間 電話四四番
大田府本町二丁目 ゴム靴 百萬商會 倉元百一郎
京釜線沃川驛 驛長 郡司保
日本生命大田出張所長 尾崎喜藏
大田府春日町 カフェー 樂天會館 福島良美
大田府本町一 クリーニング 馬場ランドリー 電話五五五番
忠南論山郡連山 專賣局指定販賣所 金定錫
論山 富岡辰吉
大田府本町一(府廳前) 司法書士 山下修 事務所
大田府本町二 洋行 藤井印刷所 電話一二三番
大田府本町二 中尾酒造場

大田府本町二 米穀商 鶴川伊兵衛 電話一一〇番
大田穀物檢査所長 公門熊次
大田府本町一 芦田葬儀舍 電話三一一番
大田 大田産業組合
大田本町一 ますや酒店 木本增蔵
大田府榮町一 鍊炭 一光商會 電話一二三番
大田 測量技術員養成所
大田府春日町一 お壽し料理 やっこ 吉田
大田府春日町 朝鮮家具 製造合資會社
大田 昭和印刷株式會社
大田府春日町一 野々村印刷所 野々村次郎
大田府春日町一 氷、牛肉、牛乳 畑商會 電話一一九番
大田驛前通り 中峰蓄音器店 中峰悦道
大田府春日町三(道廳通) 自轉車 伊知地商會 伊知地熊三
大田府本町二 中村精米所 電話一一五番
大田府本町二 上井深商店 電話六五番
大田府春日町三丁目 安井煉瓦工場 安井金之助
朝鮮紡織株式會社 大田綿棉工場 小山虎善
大田物産株式會社
富士忠醤油株式會社 社長 辻方太郎 大田府本町一
大田驛前通り 雜貨 堀米商店 電話三四二番

大田府廳

新灘津公立普通學校
東明公立普通學校
山内公立普通學校
鎭岑公立普通學校
九則公立普通學校
儒城公立普通學校
柳川公立普通學校
杞城公立普通學校

大田刑務所
大德郡廳
大田郵便局
大田公立中學校
大田公立高等女學校
大田公立尋常高等小學校
大田公立第一普通學校
大田公立第二普通學校
專賣局大田出張所
大田稅務署
大田商業補習學校
村尾伊勢松

大田土曜會(いろは順)
日海興業株式會社大田支店
東洋拓殖株式會社大田支店
朝鮮運送株式會社大田支店
朝鮮興業株式會社大田管理所
朝鮮電力株式會社
朝鮮殖産銀行大田支店
忠南無盡株式會社
懷德金融組合
漢成銀行大田支店
大田電氣株式會社
大田金融組合
郡是製糸株式會社大田工場
金融組合聯合會忠淸南道支部

大田(イロハ順)
加藤寫眞館
中野寫眞館
松尾寫眞館
溝部寫眞館

大田 富士平

大田府本町一 雪駄草履スリッパ製造元 赤星政藏
大田迷?里 牧畜 松浦牛乳搾乳場
大田府春日町一 東亞藥局 伊藤健
大田府本町一 ゴム靴商 兒玉長之助 電話二〇四番
大田府春日町一 料理 だるま 湊本芳
大田府本町一丁目 タツミ藥局 辰巳
大田府春日町一 松浦屋 幸島喜太郎 電話一三九番
大田府春日町一 松本ラヂオ店
忠淸南道第一食堂員
忠淸南道 警察職員一同
忠淸南道農會
大田驛前 成歡牛乳販賣 井上商店 電話一四番
大田府西町 浦岡精米所 電話六一七番
大田府本町二 活田太一
大田驛前 食堂 自由軒
大田府春日町一 時計貴金屬 松本時寶堂 電話四七二番
大田府本町一 表具 松華堂 若山新助
大田府本町一 銀座履物店 電話二四六番
大田府本町一 生野精米所 電話一九番

大田 道會議員 金昌洙 金正煥 林昌洙
忠南土木協會
大田四百番會
大田醫師會
大田 府會議員一同
大田 鐵道水曜會
忠南公州郡 牛城水利組合 組合長 金甲淳 理事 市原義弘
忠淸南道 穀物組合聯合會
忠淸南道立 大田醫院職員一同

謹賀新年

土地 租賃業 鄭鐘澈

北面協會員 高澤藤子

京釜線永登浦 藥種 煙草 販賣 岡商店 電話六一番

京釜線永登浦 兼光釀造場 電話五六番

安養プール 保存會

校長 田中義峰

理事 小野雄文

驛長 本田貞五郎

松本杉藏

京釜線永登浦 石炭 薪炭商 金信商店 上野信夫

京釜線鷺梁津驛長 橋本角次

永登浦構內賣店 吉川商店

中央齒科醫院 院長 尹在旭

國島製作 寫眞撮影 玉仙堂

土地 經營 李致官

活文堂印刷所 洪基玉 電話一二五番

永登浦タクシー 武政森一 電話六八番

朝鮮運送株式會社 永登浦營業所 主任 細川五作 外職員一同

專賣局永登浦販賣所長 久保小右衛門 電話四七番

永登浦金融組合 理事 奧田近吾 電話三一番

樋口醫院 樋口祐二郎 電話一二番

永登浦醫院 院長 洪承喆 電話一〇五番

小田病院 院長 小田智敏 電話一七番

第一醫院 醫師一同 電話一一一番

學校組合議員 橫尾武敏 永登浦月見ケ丘

京畿道々會議員 李斗用 北面道村里

宮本齒科醫院 日本齒科醫學士 宮本範男

田尻醫院 院長 田尻常太郎

食料 雜貨 マルイ商店 飯塚利美 電話一〇八番

永登浦本町 山本洋服店 電話二五番

中川運送店 中川幸一 電話四番

永登浦公立普通學校 校長 木田恒助 外職員一同

永登浦驛長 古屋運平

永登浦公立尋常高等小學校 校長 平田庫太 外職員一同

北京料理 麒麟閣 電話一三八番

永登浦警察署 署長 二階堂昇 外署員一同

永登浦邑 大塚宗三郎 電話二〇番

東一銀行 永登浦出張所 李重宰

和津料理 麵類仕出し 霞月 永登浦驛前電話四六四番

キリンビヤホール 永登浦驛前電話四番

新年宴會は特に御勉強致します 一品料理も迅速に配達致します

和洋料理 永登浦會館 皆様の朗らかな社交場 食堂部 撞球部 市外永登浦驛前 電話一三七番

カフエー十字路 永登浦驛前京仁大通り

カフエー銀蝶 永登浦東仲町

永登浦邑 李昌云商會 電話五四・五五・三九番

永豐精米所 新豐釀造場 大陸貨物自動車部 白寬永 電話三八番

學校組合議員 西吉序三郎 電話四四番

内務局京城土木出張所 主任 高橋庄之進

始興郡廳 郡守 小ケ倉喜平 内務主任 長沼貞治郎 財務主任 三宅通夫 外職員一同

永登浦稅務署 署長 三村誠一 外署員一同

永登浦邑會議員 (無順)
手賀常五郎 畠山基作 金泰濼 今西覺郎 李昌洙 梶山周介 崔俊永 山中巳之助 小田智敏 柳東馨 齋藤幸吉 姜景玉

永登浦郵便所 梶山周介 電話二三番

永登浦朝鮮酒酒造組合

金浦自動車部 明診錫

昌和工業株式會社 專務取締役 高橋馨

朝鮮染色整理工場 柳町國夫

合資會社京城煉瓦 代表者 鈴木文助

京城府外鷺梁津 合資會社 朝鮮コルク工業所 藤屋紀一 電話龍山一四七六番

陽東殖產株式會社 長谷修一

演藝館 館主 太田寬

和洋 雜貨商 安國鎭商店

明水臺土地經營事務所 木下榮 京城府外鷺梁津明水臺梅通り

金浦金陵會

永登浦邑事務所 邑長 森高源藏 外職員一同

朝鮮皮革株式會社 常務取締役 中川以良

朝鮮麥酒株式會社 永登浦工場 工場長 木部崎弘

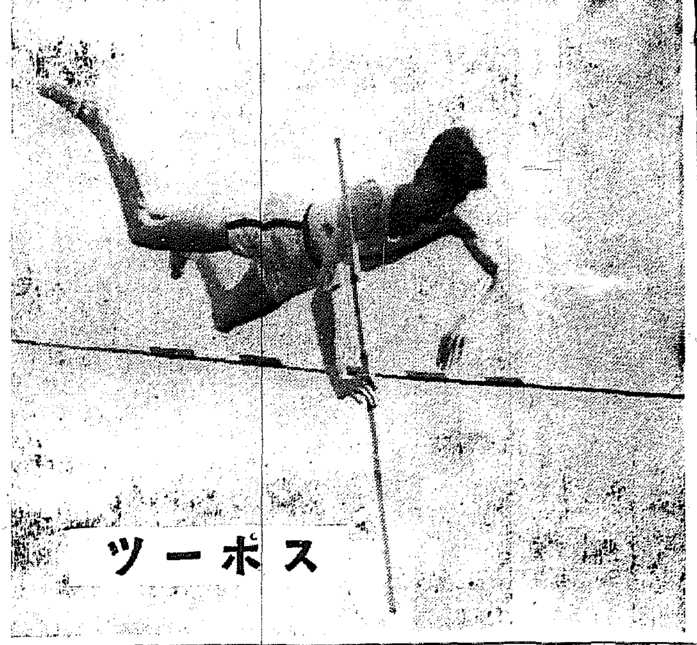
昭和麒麟麥酒株式會社 永登浦工場 工場長 坂口重治

龍山工作株式會社

京城紡績株式會社 永登浦工場 工場長 尹柱福

鐘淵紡績株式會社 京城工場 工場長 片岡勉

京畿改良瓮酒造用器全鮮總販賣所 永登浦土器商會 鄭寅煥



スポーツ

オリンピック　思ひ出と希望

京師　梅澤慶三郎

第十回オリンピック大會視察の恩命を拜して、羅府に滞在したときに思を走らして見よう。マラソンの優勝を名もない青年ザバラ選手に占められた時の遣る瀬ない絶望が半島の生んだ、マラソンランナー金恩培選手の六着に入賞せるに叫び俄然吹きとんだ。そして涙のまゝ

控 室に駈け込んで、酸素吸入をして居る金選手の手をとりて男泣きに泣いたあの涙は抑何であらう。自分は日本人であると強く呼び醒された感激と感謝の涙であつた。現夜そのものに直面したもの及アンテナを通して渦中の人となりしものも、共に此の涙の尊さは首肯出來ることだらう。

一九三六年々伯林に此の感激の場面を展開する年なのだ。而して更に半島より世界記錄を保持する選手を送り出し得る。何と言ふ喜ばしいことだらう。

希 くば彼等をして期待に副ひ得る活躍を完成さしたい。そして二十數年に亘るマラソン優勝の我が念願を諸君によつて達せしめたい。伯林に於てはそれ〳〵激勵應援の具體的方法等も講ぜられて居るときくが、前大會の如き沿道到るところ日の丸の波と言ふ如き應援は見られまいと思ふが、どうしても今次の大會で優勝したいのはマラソンだ。

ボキシング、レスリング等もよく見たが、胸につけた日の丸の手前、どうしても勝ちたいのは是だ。ノクアウトされた

日 の丸、組伏せられた日の丸は見るに忍びなかつたことが新な記憶として甦つて居る。而も之等は體重を略々等しうて戰ふのだから尚其感を強くする。國際オリンピック大會にては勝つて國旗を揚げ、スポーツによりて國威を宣揚するのが第一義と信ずる。飽くまでも勝たねばならぬ

よし負けるにしても展開する總ての場面の活躍は最も訓練された日本代表の若人であるべきだ。負けて演場より敗走の拍手を送られた竹中選手の如きであり度いと思ふ

次 に朝鮮スポーツ界の飛躍の基、齋藤の組である健脚強豪が飛躍を極めて、基本金作成の努をさゝ眞心から喜んで居る。之が達成を貫徹せしむべき希望の切なるものを述べて筆を擱く

オリンピック陸上展望

半島選手の活躍を期待す

本府學務局　竹内一

一

個人の自由意志でやるリクリエーション又は保健としてのスポーツは論外とし一個の社會的現象としてのスポーツの競技會は夫々大きな社會的使命を持つ我が日東帝國の「大國民精神」の強調は現在の凡ての社會的集團の活動中に認められるところであるが、來るべき第十一回伯林の國際オリンピックを目前に控へ願くば我が日本代表選手がこの大精神を遺憾なく發揮し、我等國民が、この精神の熱意で後援したいと思ふ

二

水上日本の世界的征覇は誰しも願ふところ、陸上競技に於て、マラソン、短距離それに傳統の跳躍陣に於て世界征覇の第一歩を確保すべき世界第二位を期したい

我が半島の生んだ孫、南二選手それに短距離の吉岡、矢澤、近藤、鈴木、棒の西田、大江、ジャンプの原田、大島、田島、關閑、田中の諸選手の自重を前望する其他蹴球、籠球等新たにオリンピックに出場する種目に於て堂々極東日本の實力を誇揚し其他の競技に於ても水上、漕艇等從來の成績を一蹴し世界の水準に達すべく努力せられんことを望む

特にマラソンは國際オリンピックの歴史的存在として最も華やかなるもの。金栗先輩以來未だ優勝の榮冠を逸し來つた今日、我が半島の孫選手により見事伯林のマラソンゲートの頂上高く我等の日章旗を揭げしめるべく健康の努力を拂ひたい半島二千萬の民衆と共に斯くあるべきを望む

（寫眞は孫選手）

水陸を除いた豫想は綜合的に期待薄

籠球、拳闘、馬術などにかゝる望み　浮沈の岐れ目、最後の努力

第十一回國際オリンピック選手も國を擧げての聲援に愈よ駒をベルリン陣頭に押し進める事となり王座死守に筋肉をくだく水上軍、ジャンプ、マラソンを主力とし王座を目指す陸上軍の華々しき奮闘振りは既に周知の所だが、これに續くボート、馬術、體操、ホッケー、拳闘、レスリング、更に新參加の蹴球、籠球、ヨットの形勢はどうであらう？先づ古い歴史を持つ

ボート では、エイトの東京帝大、フォアの早大と既に代表選手の決定を見、ロサンゼルス以來の苦心の結晶は猛選選最終日の驚異的新記錄となつて晴れの舞臺に多大の期待を繋がれる。就中フォア早大の猛進振りが注目の的であり、各國强豪との爭覇決戰は注目して見るべきであらう。エイトの東大は參加國の激増で相當の苦戰を豫想されるから五、六位に入賞出來れば上々の成績と云つてよからう

體操 昨年度の學生軍歐洲遠征成績より推せば團、五位は動かぬ所であり、得意とする鐵棒、吊環の多量得點は當入れと見られるが、問題は鞍馬に對する努力如何にあり、此處が浮沈の岐れ目と云つて差支へあるまい

西大尉

レスリング 新興のレスリング界は内藤、新免兩選手を擁と

齋藤選手

云ふ所に此の種目の特異な興味がある。選手は極東代表あたりが主力となるものと豫想されて居るが人材豐富な輕量級のフライ、バンタム、フェザー級も有望視され、重量級に於ては第一人者たるライトの永松、ウエルター級の猪君更に全面的な朝鮮軍の躍進も加はつて意外な專屬的名選手の出現となりはしまいか

馬術 前回西大尉の孤軍奮闘に依る征覇に勇躍百倍、西來人馬の整備に努力するも開催地がベルリンだけに苦戰はまぬがれ難く依然陸軍の西大尉の努力に期する所が多い

ホッケー 印度の絶對的な強みは自他共に認められてゐるが、本場の英國初め、群雄割據する歐洲にあつては前回の第二位維持はむづかしく、東西大以下四十名に餘る代表陣補今後の精進に俟つより外に道はない

拳闘 プロ拳闘に押され氣味の現アマチュア界は沈滯期にあるものと見られるがタフネスな國民性は又如何なるファイターを生むやも計り知れぬとして昨度の海外遠征に依つて目覺ましい躍進を示して來たが、無敵の早大勢の活躍は充分な自信を得たと聞く、第一に擧げられるライト級風間のテクニック、試合度胸は賞するに足るものであり、フェザー級にあつては元氣な水谷、落ち付きのある西田の頑り合ひが期待され、バンタム丹波のファイトも頼もしい

蹴球 新參加の蹴球は三百年の歴史にはぐくまれた歐洲諸國並に第八、九回連續優勝のウルグワイ以下チリー、アルゼンチン等の南米諸強に對しては一寸歯が立ちさうにもないが、問題はブロークンタイムの解釋如何にあり、これに觸れる選手を除いて見ても一勝を得れば、手柄と云つてよからう

代表としては早大が第一に擧げられてゐるが、國內に於て體力と走力を誇る同チームが何處迄戰ひ得るか、最初の海外遠征として興ろ今後の業みが多い

籠球 同じく新參加と云つても米國、日本以外に行はれる所少く蹴球と大分趣きを異にするから第二位は確實と見られる。理論に優れたる我國としては體格の點が最も考ふべき所であり、最近長身を註冊とし連戰連勝をほしいまゝにする東京帝大を以てすれば先輩格たる米國への挑戰もまんざら棄てたものでもない

ヨット 最も新しいこの競技に望みをかけるは無理であり、風に乘る競走の事だから記錄的に對比不可能で豫想等とは雲をつかむやうなものである

カット寫眞は西田選手の棒高跳

庭球王國朝鮮

榮譽を保持する爲　次の戰備を固めん

李承鶴　寄

過ぎし昭和十年は

我 が半島に軟式庭球が移入されて既に四半世紀この方未だ曾て成し遂げ得なかつた制覇の夢を完成し得た、實に半島の軟球史上に一大特筆すべき畫期的飛躍の一年であつた

彼の昨夏八月に於ける全內地選拔軍の襲來、同十一月の明治神宮大會にては府縣對抗の連覇に加ふるに個人トーナメントの優勝等々全く今や我が半島の軟式庭球界はその黄金時代を形成し名實自他共に許す軟球王國を築き上げたのである

それ丈けに我々球人の等しく心してゐることは、この過ぎし三五年に於る勝利の歡喜よりも、來るべき新なる三六年に備ふる對策と苦心である、

し かし筆者は先般の明治神宮大會を實見して我が朝鮮軍は事實恐く無敵であり當分は大丈夫だと言ふ信念を強め得たのである。

それは單に選手の實力に於てのみではなく、眞に歡ぐましい程の團體的一糸亂れざる統制に於て然り、又大會そのものの進行状態に於ても亦觀戰の統制の點等々に於ても既に我が朝鮮の方が優れてゐたのである

われらはこの責任と義務を一層よく自覺の上虛心坦懐一致協力して一に我が半島蹴球の榮譽と名譽の持續に努力邁進せなければならないと思ふ

恭賀新年

京城府若草町四十番地　印刷インキ　寫眞材料　日東洋行京城出張所　電話本局五四九四番

京城府本町二ノ二　壽し久　電話本局一九一〇番

京城府南大門通一丁目　中山洋紙店

京城府黄金町一丁目　奥田洋服店　電話本局六六一番

京城府本町四ノ一三一　合資會社　谷岡商店

林田金次郎　京城府本町二丁目九七

京城自轉車商工組合

日本タイプライター株式會社　竹内一郎　京城南大門通一ノ一二四

京城府明治町（東拓前）　合資會社　杉山商會　電話本局（2）七四番

京城西大門町二ノ一　西華　同興昌洋服店　主任　張利興　電話光化門一二八四番

京城左官業組合

合資會社　大正コンクリート工業所　坪川英士　京城府岡崎町一四　電話龍山四八〇番

三越美容部

京城食堂組合

京城本町一ノ三六　高木鞄店　高木德彌

京城府長谷川町百拾貳番地　京城不動産株式會社　電話本局（2）二二九番

京城府鍾路一丁目三十六番地　横濱火災海上保險株式會社　京城支店　電話光化門（3）一三三八番

京城水產株式會社

京城府南大門通三ノ一〇六　日本紙業株式會社　京城支店　電話本局（2）三二一五番

京城府南大門通五ノ一　朝鮮皮革株式會社　電話本局（2）一九五六番

京城自動車販賣者協會

東亞蠶糸株式會社　社長　小賀野清藏

朝鮮書籍印刷株式會社

クームヒン株式會社　專務取締役　京增晋　常務取締役　和田重美　支配人　佐藤勘次郎　本社　京城府元町　木材防腐工場所在地　龍山、新義州、城津

京城義州通二丁目一四　朝鮮繩叺協會　會長　坂本由藏　電話本局二四六三番

京城驛構內　京城水產會社　電本四九三八　五〇〇八

京城府瑞麟洞一三三番地　京城建物株式會社　電話光化門二四五二

京城南大門通三丁目一〇六　京織產業株式會社　電話長本局九七四　長本局二三〇四

共同火災保險株式會社　京城出張所　京城南大門通三丁目

醫療器械　株式會社　後藤風雲堂　京城出張所　本社東京市神田區小川町一丁目　京城南大門通三丁目

京城府御成町三四ノ六　合資會社　日華鑛業商會　元胤洙　電話本局五四〇八番

京城府長谷川町一〇〇　門田製版所　門田秀文　電本五四三〇番

白水　京城府旭町一丁目

京城美容美髮組合

金井鑛山株式會社　東京丸の內、昭和ビル四階　京城事務所　京城府本町一丁目（旭ビル二階）

朝鮮運輸計算保證株式會社　京城府南大門通五ノ一

鮮滿運輸株式會社　京城驛前

興業無盡株式會社

朝鮮金融組合聯合會　京畿道支部　京畿道內各金融組合

京城內地人辯護士會

京城黄金町二丁目一八　合名會社　森電機商會　電本二三四八・五六一〇

合資會社　京城煉瓦

京城府古市町一九番地　諸機械類　建築材料商　青木商會　電話龍山三五六六　四五三九番

京城府日之出町十三番地　志岐工業株式會社　電話本局二〇五番

京城府太平通一丁目四〇ノ二　合資會社　多田工務店　電話本局六三四番

京城府黄金町二丁目百六十三番地　明治生命保險株式會社　京城支店　電話本局長九番　四九八番

時局偶感

公爵 近衛文麿

ひと頃猛烈な勢ひで世間を席捲したファッショ的な風潮も最近は漸くそのテンポを緩め少く共表面的には漸次平常に復すかの氣運が觀はれる樣だ、世間の多くも亦斯く信じ、滿洲事變に引續く一連の出來事とその後の情勢は、すべてこれ一時的、變態的な事柄と觀じて、この變態的時局はやがて事變前の時局に與るものと確信してゐる向きが多い樣である

この 人々にとつては最近のかうした傾向は喜ばしいものでなければならぬ、自由主義の復興と云ひ、議會政治の力說と云ひ、政黨常道論の擡頭と云ひ、すべては一陽來復の春近しと感じたこれ等の人達の叫びに外ならぬ、然し果して然るであらうか

成る程ファッショ的傾向は一時程猛烈でなくなつたかもしれぬ、政黨政治に歸れの聲も大分聞かれる樣になつて來た、然しかゝる表面の形式的な傾向、果して内容と一致するものであらうか、政黨政治論者のメッカ英國の政黨政治も議會主義とは云ふもののその内容は自由主義華かなりし時代に比し根本的差異を生じてゐるのではなからうか、先づ二大政黨による政權授受はもとより、御承の政黨内閣主義とは緣遠いものがあるのではないか

要す るに形式は議會中心政黨政治であつても、實質的には根本的の變化を齎つてゐるのではあるまいか、我國の議會政治についてもこの點充分の考慮を要するものなしとは云へまい、形は昔に歸つた如く見えて内容的には果してどうか、近時政黨政治への聲を謳歌するの餘り、この實質を見落す人はないであらうか

▼—▲

『非常時』と云ふ言葉は滿洲事變以來の通り言葉となつた感で二言目には非常時々々と云ふ、然しこの言葉から受ける感じは平常時と對照的な、何か普通時でない、即ち變態的な時代と云ふ感じである、又これを口にする人の多くは非常時をかく感じ斯く信じてゐるのであらう、が、果して然るか。

事變 以後の我國の國内、國際情勢は事變以前と本質的に異なるものありと思はれる、全く新たなる變革的段階に入つたものと思ふ、從つてこれが及ぼす社會的政治的將又經濟的影響は劃期的なものである、社會思想にしても多少の行き過ぎや擬態さはあるにしても、かかるものゝ誕生することは自證には必然的な根據がなければならぬ、これはテンポの緩急はあらうが事變以前の事態とは根本的に異なる土壌に誕生したものであるから、事變以前に歸すことは不可能であらう、『非常時』と云ふ言葉の持つ内容がいさゝかでも變態的、一時的と云ふ意味を含んでゐたらそれは間違ひではないか、過渡的と云ふ意味なら一部首肯んでみることはあらうけれども

▼—▲

議會 季節ともなればそろ〳〵議會の解散非解散が問題となり、次期政權の推移が色々取り沙汰されてくる、次の議會が解散か否かは豫斷し得るところではないが、解散論者に云はせると解散しなければならぬ理由があり、非解散の建前からすればこれにも一理あり、種々に何れとも斷定は下し得ないし、又かうした政治上のことは理論によつて斷定を下すべきものでもあるまい、從つて假りに解散となつて選擧の結果政民何れかが多數黨となつて、所謂憲政の常道によつてこの多數黨に大命が降下するものと斷定する譯にもゆかぬ、一方の黨が純野黨であつて、この野黨が多數を獲得したのなら兎も角、今日純野黨もなければ純與黨もない、といふのが現狀であるからかゝる議論は成り立たぬ、又實際上から云つても一黨による内閣組織と云ふことは今日の狀勢では不可能なのではあるまいかと思はれる、然らば將來の政府は當分擧國一致といふか協力と云ふか、或は又超然と云ふか兎も角現在あるが如き形態の内閣をこゝ暫く續けなければならないであらうか、これは問題である

現内 閣は、擧國一致内閣と云はれてゐる、成る程政黨、官界、貴族院各方面の人を入閣せしめてゐるといふ外形上の點からすれば、さう云へるし、尙その上に内閣審議會、調査局の構成によつて内閣が組織されてゐるといふ點からみれば尙更擧國一致的外形を具へてゐる、これは確に擧國一致内閣である、内容的にもさうである

何となれば **齋藤** 岡田兩内閣は、事變以來生じた國内的、國際的變動に處して人心を安定せしめ社會、政治、經濟各方面に亘る急激なる變革を押へ、スムースなる社會的發展の槓杆としての役目を果すために成立したのであり、この目的を達成すべき組織構成として現にあるが如き擧國一致的形態を採つたのである、そしてこの役割はまづ〳〵果し果しつゝあらうと云へる、この限りに於ては確に擧國一致であつた、然し

將來 も亦此の如き形がとられるであらうか、同じく擧國一致とか協力とか云ふも、又別個のゆき方があるのではあるまいか、即ち當面最も緊切なる政策斷行、國民の最も切望し待望するものを高く掲げてこの旗の下に政黨といはず、官界と云はず、貴族院と云はず、財界と云はず、軍部と云はず廣く人材を天下に求め、之に斷乎力し身命を賭して現狀を打開せんとするの士を以て内閣を組織する、これも一つの擧國一致、協力内閣の形態である、かうしたことも考慮されていいのではあるまいか。

▼—▲

靜か に最近の政治批評の傾向をみるに積極、進取の行動をなしてゐる向きに對しては事態の進行中は之に對して一言半句の批評をも下さず、これが或る成功をみた場合は默つて之に追隨し之が失敗した場合は宛も最初から結末を見透してゐたかの如く非難、攻撃の矢を浴せかける、と云ふ傾向がある、最近これに類した事態の發生をみて特にこの感を強くするが、かゝる傾向は論理的に不合理であるのみならず卑怯な態度である

或る 積極、進取な行動に反對ならば、それに對立すべき行動を以てすべきであり、少くとも反對の理論を掲げて之と戰ふ丈けの氣概を示されたい、然るを結論を見てから態度を左右にするは消極云ふに堪へぬ態度と云はねばならぬ、かゝる態度からは傍觀的批評は得られるかも知れぬが一國の國策に寄與すべき何物も得られない、又他に次の樣な傾向もある

或る 積極、進取の行動に對し、之が誕生に經過中に於ては反對ではあるが止むを得ないと云ふ態度をとつてみながら、この行動が一段落して或る新たなる事態を生むや、かゝる事態を惹き起した行動そのものには反對だが事此處に至つては、この事態を承認して盡くせねばならぬ

と云 ふ態度だが、かゝる態度から生れるものは誕生した事態の後始末のみで泣き事を云ひ云ひ駄々子のお守りをする老婆の役しか與らない、新興日本の創造を任ずべき樣な意氣に缺けてゐる、方針がない、主義がない

最後にかゝる態度がある

積極 進取の行動に對し不滿を持ち乍ら自分は何等の發言をもなさず、偶々之に對して反對の發言をする者があると之に喝采を送り快哉を叫んで僅かに溜飲を下げるもの

かゝる態度は唯徒らに反對の發言をする者を英雄化し、之に共鳴するものを自己滿足せしむるのみならず、反對するものと反對されるものとの間に溝を深め國論を兩分する結果を招來せずとは斷言し得ない、危險なことである

以上のことは滿洲事變とその後の事態に對する世評に鑑み、再思三考の要なしとは云ひ得まいと考へる

或る ▲—▼ 積極的、進取的行動に反對する場合は自己の綱領を以て之に對抗せしめねばならぬ、徒らなる技葉末節的傍觀批評は、何ら國家に寄與するところもない、新たなる段階に入つた時局に對し舊時代の意識を以て之を批評し、その行き過ぎを矯めると稱して行動にブレーキをかけて得々たるは憐れむべきものと云はねばならぬ、その立場に立つて行き過ぎや過誤を指摘し、指導すべきであらう、しかし又これに向つて根本を忘れた弱點非難をなすは自ら省みることをせず、やがて生まれる新生的事態を批判し指導する

國を 愛し國民を思ふ積極進取の人々に對しては、その思想を理解し協力を與へ、進んで誤らざる指導をなすことこそ新時代爲政者の態度であり、かゝる立場こそ刻下緊切に要求されるものではないであらうか

農村は立直りか

物價は昻る

昨年の豐作頃から、農村の購買力が著しく增進して來た。肥料、飼料から、日用雜貨に至るまで、この數年來、全く見られなかつた好賣行を示すに至つた。殊に、肥料界は、豆粕、硫安、過燐酸等有機無機一切を通じ、肥料會社も面喰ふほどの好景氣で、十月に入つては過燐酸肥料だけでも、一日十數萬叺の實需荷動きに、肥料商のストックは品薄になつたと云はれる

燐酸肥料會社（多木を除く）の十月中の出荷は、二百二十萬叺のレコード破りと報告されてゐる。この肥料の大部分は秋蒔麥に施用されたものであらうから、今年の麥の豐作は、先づ、必定といふことになる

農村では、堆肥の使用を極力獎勵し、金肥抑制に努めてゐるのであるが、それにも拘らず、金肥がかうした好賣行きを示すのは、農村立直りの一證左と見てよいであらう

この外、農村地方における郵便貯金の增加も見逃しには出來ないであらう。尤もこの貯金は必ずしも農村のものとのみ限るまいが、長野縣や新潟縣などでは、郵便貯金がレコード破りの增加を示してゐる。これなどは、米安と繭で最も強く打ちのめされた地方の立上りを意味するものであらう

かくて農村にも、一陽來復の春がめぐつて來たと云へる。昭和五年、農業恐慌襲來以來、來る年も來る年も、陰鬱な空氣にばかり鎖げられて來た農村も、こゝに始めて晴れやかな新春を迎へることが出來たわけである

かうした好轉の主なる原因は、主要農作物や工業用作物の値上りにある。米價は徐々に昻騰して、石三十圓を突破し、今や公定最高價格にまで來てゐる。一時から見れば、反二、三十圓の增收となるわけである。この增收は、僅かであつたとはいへ、農家收入を赤字から黑字へ引上げた貴い數字である

それから、繭も赤字を免れた。貫當り一圓臺に陷落してゐた繭がこの暮には八圓臺にまで暴騰した。この八圓臺の高値に均霑した農家は殆んどいふに足りないであらうが、昨年は春繭收穫四千四百二十一萬一千貫で、その賣上價額一億六千二百十萬圓、夏秋繭收穫推算三千五百萬貫、一貫目當り五圓として一億七千五百萬圓、合計三億三千七百萬圓で、前年に比し一億の增收となる、全國養蠶農家百七十萬戸として、一戸當り二百圓前後の收入に當り、前年に比し約八十圓の增收である

麥は小麥であるが、一時、俵五圓臺に落ちてゐたのが、九月頃から急騰し、九圓臺にまで飛上つた。そして昨年の小麥實收高九百六十六萬石中殆ど出廻つたものは可なりに農村を潤ほしたことになる

また、大豆、小豆を始め諸雜穀類も、四、五割方の騰貴となつて居り、それに追隨して、果物や野菜類も、一般に高くなつた

その他畜產物も値上りとなり、要するに、農業が久し振りで採算が採れて來た

このやうな狀態が今後、來年も續けば、農村の大部分は立直り得ること疑ひを容れない。そして、昨年から農業が立直り始めたと云つてよいことになる

高値は續くか

そこで、昨今のやうな農產物の高値が何時まで續くかといふことが問題になつて來る。昨今の高値が、單に一時的な現象であつたら農村の立直りを口にするのは、まだ早すぎるかも知れない

農產物の高値がどこまで續くかを觀測するには、昨今の高値が何によつて起つてゐるかを先づ見て行かねばならない

米、麥、繭等主要農產物の値上りの主因は、要するに供給の不足と調節にある。そして、その不足は一昨年續きの冷害、旱害、風水害などによる減收と、多年の不採算にこりた農家の作付乃至生產の減少によるものである。調節は政府の米買入、產業組合や農會による出荷乃至販賣の統制などである。調節には、この外、外地乃至外國物產の移輸入の管理といふこともある

さうして見ると、この供給の調節の方は、農家の自覺と出荷販賣統制機關の整備につれ益々巧妙になつて行けるであらう。そして移輸入品の調節も、統制を誤らざれば、年々進步して行くことであらう。それで、その調節の方は永續性を持つてゐる

ところが供給の不足の方は、永續すべき性質のものでもなければ永續されても困ることである。繭が八圓にもなるとなれば、農家は繭の値の續く限り養蠶に馬力をかけるのは當然である。一旦掃立てた蠶を、生き返らしても養蠶に集中する。最近における養蠶熱はその事實を裏書してゐる。かくて二、三年後と云はず、今年からでも、膨大な蠶繭生產を復活するに至るべきは避け難い

米にしても、昭和七、八年やうな豐作に見舞はれることも覺悟せねばならない。その時には北海道のやうな北地からさへ三百萬石の新米が出廻る可能性は十分にある

その時になつては、政府の買入調節や、組合及び農會による出荷販賣統制が如何に全能力を發揮しても、供給過剩による市價の崩落は阻止に苦しむであらう。現に白菜の如きは、出荷販賣の統制に加ふるに、各產地における產業組合の統制を以てしても追付かず、東京中央市場における卸値が六貫目俵三十錢臺からとなつてゐるから農家の受値は全くお話にならない安値であらう

それで、農產物の供給不足などといふことは永續するものではなく、從つて昨今の如き高値の維持は恐らく困難であらう

尤も物價の高下は、供給の方からだけでなく、需要の方からも見て行かねばならないが、その需要の方はどうであらうか

日本の米は國際商品たる可能性に乏しく、新用途の發見乃至擴大といふ點にも餘り大きな期待を持ち得ないから、生產過剩の持つて行き場は、凶年目當ての貯藏位のものである。況んや、朝鮮、臺灣、滿洲方面の生產費の安い優良米の增產が、年々内地米に對する脅迫を增大して行くに於てをやである

繭の方は、米國の景氣の立直りと共に、需要の增大はかなり期待出來る。然し、それも、程度問題である。糸價の昻騰につれ、從來延び悩んでゐた支那やイタリーなどの蠶業が勢力を盛返すのは、見易い道理である。殊に支那に於ける蠶業改良施設は着々効を奏してゐるのであるから、その出廻りが復活することになれば、糸價の低落は、恐らく免れ難い運命であらう。その上、人絹の高級化といふこともある

旭ベンベルグのリンターによる高級人絹を凌がうとするものが、紡績工場に於ける莫大な落綿を原料として、三井の資本により廉價に大量生產されようとしてゐる。その他、各人絹會社とも高級から高級へと、天然蠶糸の牙城に向つて突進してゐることは周知の事實である

農家の自覺

農產物が、また遠からず下落するとになれば、農村の立直りなどといふことは、とても云へなくなるかも知れない。然し、だからと云つて、農村の立直りを悲觀するのは早計である。何となれば、農村は、農業恐慌襲來以來、五ケ年の苦い試練によつて、不況と闘ふ道を獲得したからである

日本の農業は、この五ケ年の間に戸別單位から組合單位に進化した。產業組合はこの擴充五ケ年計畫の第三年度たる昨年に於て、既に農家の六割餘をその組合員とした。そして今後、小農の加入率を增加せしめることによつて、農村を完全な社會的經濟的綜合體たらしむるに成功するであらう。農村は既に從來の單なる行政的自治體たるを脱し、社會的經濟的自治體に向つて進行中である。村役場が單なる戸籍役場乃至徴稅役場であつたのは過去のことで、今日では村長は農會長と產業組合長とを兼ねた三位一體でなければならないやうな風潮になつてゐる

村役場は耕作指導から生產物の出荷販賣の斡旋、醫療から榮養の改善、借金の始末までつけてやる

村民は隣保相扶の五人組制度を復活するやうになり、各部落は社會的經濟的生活の渾然たる一單位とならうとしてゐる

これが過去五ケ年の農業恐慌に刺戟された自覺の結果である以上その恐慌も無意味でなかつたと云へるし、その強い團結の力で不況の克服されないといふ事もなからう。かくて農村の立直りは期待してよいと思ふ。そして農村の立直りは日本全體の立直りでもある

義士銘々傳（17）

悟道軒圓玉 演
中一彌 畫

序說 17

家老自ら謹愼

やがて外記は言葉を繼ぎ

『夜前、私事、ひそかに吉良殿へ參り、やうやくにして中奥にて對面を許されました。然る所賄賂は案に違はず其功を奏しまして本日主君へ對しての彼の所爲、前日に打つて替はつて懇ろなりとは、嗚呼、身は四位の少將におはせられ綾羅金繡を纏ふところの尊き身分をも顧みず、心の汚濁さは匹夫下郎にも劣る……然しながら御勤役も無事御安泰に治まりましたは大慶至極に存じ奉ります。とは申せども、上の御勇氣を挫き奉り、且は獨斷を以つて御財物を左右いたしましたる罪は此の外記にござります、然れば此上は外記に切腹仰付け下さるやう願ひ上げまする』

と始めて明かす外記の眞心。

能登守は外記の手を把り推し戴きつゝ、はふり落つる涙を押へ、

『オ、外記、拙は上野は左樣なる卑しき者であつたか、とは知らず、全く遺憾あつてのことゝのみ思ひ居つた、その方の計らひなかりせば、予は血氣に逸り彼に及び、我が織田家も遂に斷絶いたしたであらう、返す〲も能登の粗忽、其方なかりせば、今の如く相見ることも出來得なかつたの―、眞に當家の恩人且我が生命の恩人と添く思ふぞ、何條其方へ切腹を申付けることあらん……家來とは思はぬ、血族の伯父とも思ふぞよ、外記……』

と、大層な喜び、それは言葉や筆紙には盡されませぬ。取敢ず外記は二百石の加增の沙汰があつた。

然る所、

『私に於きましては、上のお金を我儘に使ひ、之にて御加增を受けましては、假令、忠義の行ひとは言へ、之が先例と相成る時は今後の爲め過ぎた變虚に堪へませぬ、外記自儘の罪を御糺し下さらずば御家の規則が立ちませぬ』

と申して自ら三十日間の遠慮を致し、此罪を詫びたと申すことで今以つて織田侯の御家來分に多湖外記の血統が續き居りますは目出度いことで、實にや君は船、臣は水とか、美しい話で、物質萬能の風潮が日を追ふて漲り、親子兄弟主從師弟夫婦間の影が薄らぎ行きますは寔に寒心に堪へませぬ。

扨て、翌元祿十三年三月、本年も例年の通り年賀の賀儀として、京都より東都へ御勅使御下向、依つて相變らずの御饗應、此任に充つる役人を御老中若年寄に於いて評議の上、選定いたして仰付けられたるは和泉國岸和田の城主、高五萬石の岡部美濃守義長侯……海に有難く御請して迷惑千萬な次第。

此の美濃守は當年五十三歳、當時、侯方の中にて武術の三幅對と呼ばれる其中での一人です。これは弓は板倉、劍は淺野內匠、鐵砲は岡部と言はれる人々で、即ち弓箭を把つては板倉伊賀守、日置流の鋒を與ふは淺野內匠頭、鐵砲を撥ふは岡部美濃守、何れも大名には珍しいことで、俗に申す殿樣藝では決して無い。

扨、岡部美濃守においては、此の御役を命ぜられると家來の太田三郎兵衛をお呼出しになり、

『三郎兵衛、予は本年の天奏饗應を命ぜられた』

『それは……』

と言ひかけて三郎兵衛は考へてゐたが、

『大に恐れ入ります……』

と言ひ繼いだ。

『就いては其方共に申置くことがある』

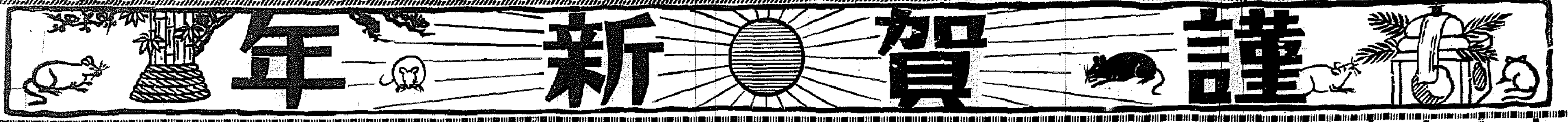
と、美濃守は昂然となつた

京城興行協會 （順不同）

京城劇場
喜樂館
浪花館
朝日座
中央館
松竹座
京城プレイガイド
若草映畫劇場

新町貸座敷組合
株式會社 東券番
東新地料理屋組合

金剛山電氣株式會社



仁川本町 廣川歯科醫院

洋品雑貨 仁川本町二丁目 藤木商店 電話四〇番

仁川新町 仁川葬儀 電話八一九番

仁川宮町 便利舎 電話二二四番

日用雑貨 仁川内里 若林商店 電話四一九番

仁川海岸町 野田紙店 電話四四四番

府會議員 仁川本町 大石季吉

仁川本町 龍榮堂 電話一五五番

ラムネ製造元 仁川花町 中山字之吉 電話七二三番

菓子卸販賣 仁川宮町 松浦元三商店 電話五六九番

仁川仲町 鈴木硝子店 電話九一四番

仁川物産客主組合

仁川内里 萬聚東 電話七六九番

牛肉商 仁川府新町 勉強屋 申瀧根

株式公債現物問屋 仁川本町四丁目八 丸加株式現物店 電話長五二三番

酒造業 仁川寺町 守山新松 電話長二四二番

仁川港 仁川汽船株式會社 社長 田中常松 會議所議員 電話長五一・六一・一四〇番

仁川本町 福島邦一商店 電話一〇一四番

有價證券現物賣買株式金融 仁川本町 岩淵株式現物店 電話五一七・一一〇四番

仁川新町 佐藤病院 佐藤一主 電話六六三番

仁川港町 河野醫院 電話六〇番

眼科耳鼻咽喉科 仁川宮町 岩永醫院 院長 岩永計七 電話一〇二一番

仁川物産株式會社 新町營業所 電話六八番 電話六八九番

京城 仁川 嘉納合名會社

京畿道産業株式會社 仁川支店 仁川府海岸町

仁川府會議員 中條榮藏

米穀肥料外米委託 仁川府海岸町三ノ三 殖産商會 電話七三七番 振替京城四〇八五

仁川驛 櫻井清

仁川宮町 トラヤ履物店 電話六一二番

仁川宮町 青島茶店 電話七〇九番

仁川宮町 森下小兒科醫院 電話長二〇二番

府會議員 仁川外里 安基榮

府會議員 仁川 向井最一

仁川濱町二二 後藤組回漕部 後藤信藏 電話長五六〇番

仁川府花町 山口製肥所 電話五八七番

仁川 上田文次郎

薬砂公立普通學校 校長 土居菊丸

薬砂公立小學校 校長 永沼官次

京畿道立仁川醫院 職員一同

仁川港町 クケヤ鐵工所 電話六五八番

社掌 仁川神社 磯野勝見 電話六四四番

京仁川線薬砂 京畿道會議員 神戸正雄

仁川仲町 鐵・吹込・硝子 澁谷商會 電話長二五四番

府會議員 仁川山根町 小谷益次郎

文房具運動具 仁川府宮町 マエダヤ商店 電話六一八番

仁川山手町 會席料理 うろこ 電話六八番

外科婦人科 仁川府新町二八 牧瀬病院 院長 牧瀬武實 副院長 小倉貞二 電話四八五番

府會議員 仁川山手町 生田鐵造

仁川海岸町 仁川自動車株式會社 電話三一九・六六〇番

所長 仁川土木出張所 福井濤

仁川税關沿岸貿易地帶使用組合 組合長 太田忍 理事 平石三郎

活動寫眞 京仁線薬砂驛前 振興館

朝鮮專賣局 原鹽指定販賣 海産物商 松永源次郎 仁川本町

鹽油販賣 仁川港町 久米商會 電話長一一三三番

仁川仲町 淺岡旅館 電話五二番

仁川府會議員 金允福

仁川移出牛檢疫所 所長 伊佐山伊三郎

仁川 勤業所 電話三三七番

仁川商工會議所議員 今井嘉三 仁川府海岸町二ノ三 電話長八〇九番

海陸運送 仁川支那町五七 愛朋社 電話一〇六一番

仁川萬石町 高杉醬油醸造場 電話七六五番

仁川府松坂町三丁目 愛敬石鹸 アイケイ石鹸 製造元 愛敬社 社長 太田嘏太 電話三一四・四五八番

仁川花房町三ノ一〇 王成鴻 電話四九番

仁川花房町 豊田酒造場 電話六四六番

和洋雑貨卸商 仁川仲町 南方商店 電話一六六番

仁川府港町四 仁川穀物協會内 内鮮運輸組 電話七〇七番

仁川府港町一 富川通運組合 組合長 金完洙 理事 宋炳喆

米穀肥料委託問屋 仁川府海岸町 河村宗七商店 電話一〇一三番

土木建築請負 仁川仲町二 光田新太郎 電話一三六番

協同海運商會 村尾重男 仁川府港町五ノ三

仁川府廳 能川清之助 守山春市 松崎重雄

仁川税務署員一同

仁川宮町 外科婦人科 西野入醫院 院長 醫學博士 西野入眞澄 電話一一一六番

朝鮮總督府穀物検査所仁川支所 所長 上山雄次郎

仁川府港町 運送回漕部 福島組回漕部 電話五三六五番

回漕業 仁川府海岸町四 野口商會 電話二七四・五七〇番

仁川府内里九七 朝日洋行 鬼頭兼次郎 電話長六八番

仁川龍岡町 深見醸造場 電話長二六六・二四八番

府會議員 仁川龍里 張光淳

仁川興業株式會社 電話七一六番

小兒科婦人科 仁川府仲町三 荘野醫院 院長 醫學士 荘野啓司 電話六八二番

仁川敷島遊廓組合

仁川花町 力武物産株式會社 社長 力武黑左衛門 電話長一七番・長三五八番

仁川 朝日醸造株式會社

仁川仲町 協成商會 主 金相[illegible] 電話一二六・七七五番

穀物貿易商 仁川港町五ノ九 波佐間浩造商店 電話二六・三〇九番

雑貨卸商 仁川外里 合資會社 玉植商店 電話六五番

仁川税關貨物取扱人組合

仁川府支那町五六 仁川船主協會 電話五〇五番

日鮮海運株式會社 常務取締役 浦崎政吉

仁川府本町四ノ一 株式會社 平野商店 社長 平野稔彦 支配人 米田周右

仁川海岸町 仁川鹽共同販賣組合

朝鮮證券金融株式會社 仁川支店 支配人 澁谷鐠

仁川府濱町 朝鮮海事會仁川支店

仁川海事出張所長 加藤寮平

仁川 吉田秀次郎

仁川警察署長 熊崎喜一郎

仁川仲町 川口病院 院長 川口漁夫 電話一二一六番

仁川府外長意里 おたふくわた株式會社 原田五十男

仁川府本町三ノ四 取引店 店主 吉村榮左衛門 電話長一〇七・七〇・五八・一五九

阿波國共同汽船會社 大連支店

株式會社 朝鮮米穀倉庫會社 仁川支店 支店長 高橋俊忠 電話長九三・六三・五二番

仁川府金谷里 朝鮮燐寸株式會社 電話一五一番

仁川宮町 カフエーダイヤ 野本吉藏

仁川山手町 會席御料理 銀水 電話一三三番

仁川郵便局長 宮原猪一郎 電話三番

仁川府花房町一ノ六 株式會社 林兼商店 仁川出張所 電話五七番

仁川税關内國貿易地帶使用組合

天日鹽・食卓鹽・精製鹽・粉砕洗滌鹽・再製鹽販賣 京城專賣支局 仁川出張所 所長 鵜澤二月

仁川觀測所長 國富信一

仁川花町三丁目 合資會社 中村組出張所 電話八六八番

仁川府會議員 仁川商工會議所議員 醤油 酒 高雄支店主 代田繁治 仁川府新町一一 電話二七七番

仁川宮町 仁川商工會議所議員 永井市太郎

仁川府濱町一一 朝鮮運送株式會社 仁川支店長 太田忍 電話五二一・一四三・二三四八番

仁川萬石町 仁川府會議員 中川哲

仁川府萬石町 東洋紡績株式會社 仁川工場

株式會社 朝鮮取引所 仁川支店 支配人 平岡宇太郎

仁川組合銀行 （いろは順）
朝鮮銀行仁川支店
株式會社朝鮮殖産銀行仁川支店
株式會社朝鮮商業銀行仁川支店
株式會社十八銀行仁川支店

朝鮮海洋社 社長 島崎彦次郎 電話一二〇・一三番

京城電氣株式會社 仁川支店

丙子新年紙上名刺交換會

西岡芳次郎

棒葉孝平

伊藤重次郎

鈴川壽男

景山宜景

堀正一　朝鮮商業銀行

堂本貞一

西本計三

穗積眞六郎

井上清

加藤敬三郎　朝鮮銀行

武者錬三　京城電氣株式會社

見目德太　京城電氣株式會社

嚴昌燮

山澤和三郎

橋本左太郎

大原龍三

兒島高信

上瀧基

西龜三圭

大久保眞敏

土井誠一

阪井清　府內本町一丁目五二

山中大吉

小川彌太郎　三井物產

朴榮喆　朝鮮商業銀行

鈴木文次郎　丁子屋

佐治八郎　安田銀行

吉坂泰太郎　杉山商店京城支店

石川登盛　朝鮮火災株式會社

宮林泰司　京城

堀內萬三　京城

永岡惠　辰巳礦油株式會社

小林源六　丁子屋

今井澄雄　東洋畜產興業株式會社

江頭矩一　京城中央電話局長

山上欽三　朝鮮麥酒株式會社

大森薰治　森永製品朝鮮販賣會社

八坂卯三郎　キリンビール株式會社

渡邊退助　第一生命保險相互會社朝鮮支部長

井上主計

河原木宗橘　朝鮮ホテル

秋友毅一郎　秋友商行

加納一米

橋詰庄太郎　京城本町二丁目

新田留次郎　朝鮮鐵道株式會社

野路一雄　日本勸業證券會社京城支店

安本常一　黃金町一郵便所長

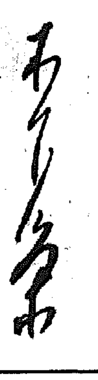
小林幹三　朝取證券取引員

荒井初太郎　荒井牧場

小村榮三　小村病院

今村豊八　京城若草町七一

梅澤友七


明水台

松井房治郎

高橋伊平　黃金町二丁目一四八

米倉元二

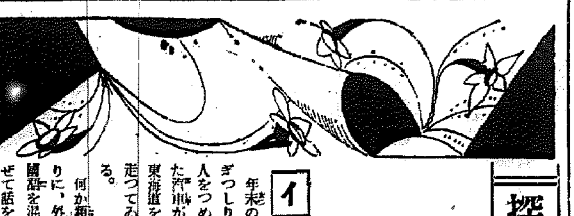
山本薰　明治町二丁目

森政吉　本町二丁目二八

山岸爲次郎　山岸天佑堂

探偵小説　極量

木々高太郎



イ

年末のぎつしり人をつめた汽車が東海道を走つてゐる。

何か頻りに、外國語を混ぜて話をしてゐる二人があつた。一人はずんぐりと肥つて、背の低い、金縁眼鏡で、誰にもすぐ醫者だとわかるやうな男であつた。一人は痩た、長身の色の黒い男であつた。

『おい、たうとう逃げて來たね。久しぶりでゆつくり、君と猥談をやる機會が恵まれた』

太つた方がさう言つた。猥談と言はれて、痩た方は、眼をクロリとやつたが、意味がわかつたので『アハヽ』と笑ひ出した。

二人は學生時代から仲がよかつた。一方が太つて、一方が痩てゐる通り、性質なども反對であつた。一方は大學を出て醫者になりし、一方はそのまゝ學校に殘つて、法醫學者になつたし、ゆく道は違つたが、何處か氣があつてゐると見えて、逢へば話に夢中になつた。

ある時二人は、何方も細君を連れてゐる時に逢つた。そして細君を放つたらかして、二時間も熱心に喋つたことがあつた。醫科大學を出た奴等のよくやるやうに、話は羅典語まじりであつたから、細君達は高尚な學問の議論をしてゐると思つて神妙にしてゐた。ところがあとで、これが猥談であつたと言ふことが、一方の細君に判つた

『まあ、厭な方ね』

細君は、さう言つて、如何にも輕蔑したやうに、もう一方の細君に耳うちをした。細君たち二人も仲がよかつたのである。

ロ

それ以來、二人の細君は、良人達がどんな話をしてゐても、二人にわからぬやうな話だと猥談であると斷定して了つた。今、汽車の中で、痩せた方がこのことを思ひ出して言つたのが判つたのである。ところが痩せた方の細君は、今も變らぬ同じ細君であるが、太つた方の細君は三年前に死んで了つて、今度は、ひどく若い細君を持つたと言ふ話である。痩せた方が外國に行つてゐた時のことであつたから、新らしい細君とは交際がなかつた。なる程三年二人が逢はなかつたのは、太つた方に新らしい細君が來たためであつたかも知れん。して見ると、今度、年末に、一緒に旅をするといふのは、久しぶりであつたなあ、と痩せた方は考へてゐる。

この太つた方は若月といふ醫學士で痩せた方は、志賀と言ふ醫學博士であつた。志賀博士は××大學の法醫學の助教授であつたが近頃犯罪捜査の方でも官憲の手助けをして、幾つかの重要な事件を解決したので、忙しくもなり有名にもなつた。久しぶりで年末や年始の煩はしさから逃れるために、若月君と一緒に旅に出たが、この旅が思ひがけない事件を起し、志賀博士は、眼の前で友人の若月君が殺されて、而も全く見當のつかぬ混亂に陥つて了ふやうな運命を持つたのである。

旅の第一日は山中温泉に泊つた旅の目的はとに角訪問客や、事件から逃いて身體を休めるといふにあるのだから、實際は別々の部屋にゆつくり寢たかつたのであるがさうはゆかなかつた。

『どうも、如何に君でも、同じ部屋に寢てる人があると寢られん』

若月君はさう言つて、用意して來た催眠藥を飲んだ。

『君は何時から不眠症なのだ、どうも見てると、無暗に澤山飲むやうだな。一體藥は何だ。』

『藥はウレタンさ』

『ふん。ウレタンなら相當飲んでいゝのだつたな』

『いゝや。それはエチルウレタンのことだ。俺は始めエチルウレタンを飲んでゐたが、今はフエニルウレタンなのだ』『何と、フエニルウエタンてのは强い藥。だぞ それを、そんなに飲むのかね、ずつと常用して了つたのだに』

『さうだもう一年越しの不眠症で催眠藥のためか、若月君は直ぐ寢ついたので、志賀博士が

『おい細君と同じ部屋でも君はやつぱり寢つかれんか』と聞いた時には『もう、うん。寧ろ君と同室の方がいゝかも知れん。何れにしても』『もう藥がなくては寢れん』と細君に答へただけであとではいくら話しかけても返事がなかつた

ハ

旅の二日目は京都であつた。これは豫め電報で部屋を取つて置いたから、都ホテルの別々の二室に寢た。

『昨夜はどうだつた』

『うん、一人だといゝが、昨夜もうとうとしただけだ。うちの藥劑師に作らせて來た催眠藥を何處かへ失つて了つたので、昨夜は、藥なしだつた。――それでうまくいかなかつた。今日は大阪で藥局に作らせるつもりだ』

志賀博士は友人の不眠症を惧れんだ。そして、これは單に多忙が原因で來た神經衰弱ぢやあない。何か家庭的に關係があるのではないかと疑つた。

三日目の宿は神戸にとつた。神戸は二人の友人に當る木坂と言ふ醫學士の別邸であつた。須磨の高臺で、海の見える絶好なとこで主人は本邸から來なかつたが、女中二人をよこして世話して呉た、だから、何處の宿よりも氣兼ねなしの、廣い部屋に泊ることが出來た。若月君は、自分で處方箋を書いて大阪で催眠藥を作らせて來たから、今晩は安心だと言つてゐたところが、翌日、志賀博士は隣室に寢た若月君が仲々起きて來ないので、一旦自分だけ起きて廊下の部屋で新聞を讀んだり、朝飯を食べたりしてゐたが、餘り不審なので上つて見て驚いた。若月君は死んでゐたのだ。

志賀博士は今まで、いろ／＼な殺人事件に檢視にもゆき、鑑定にも行つた。然し、自分が一番近い當事者として殺人事件に立會つたのはこれが始めてゞあつたから、頗るあわてゝ了つた。本邸の木坂醫學士にも電話をかけ、神戸警察部の出張を仰いだ。便利であつたのは、やつて來た檢事も、警部も、志賀博士の名聲を知つてゐて呉れたことであつた。

『志賀さん。あなたが始めから殺人事件だと仰言つたので、我々もさうかとさう思つてみたのですがこれはひよつとしたら自殺なのでありませんか。――死因は誰が見ても服藥死ではありませんか』

『いや／＼、自殺ときちやあおかしいのです。第一、私は故人には相當の親友で、それに今度も二三日一緒に旅をして、不眠症の外には、本人はこれほど愉快な旅をしたことはないと言つてゐる位なのですからねえ―』

志賀博士はさう言つて考へ込んだ。枕元に大阪の或る藥局で作らせた藥包がころがつてゐたし、六包のうち二包に一包だけしか飲んでゐない勿論遺書も何もないし自殺らしいところは少しもない。早速電報で、東京からやつて來た若月君の細君も、びつくりしてゐるのだ。

『近頃病院の評判も順調と言ふより以上の好調でありますし、少しも自殺の原因などはありませんです』

志賀博士は、友人の若い新らしい細君には、此處で初めて逢つた

『さうですねえ、その上にあなたのやうな美しい奥樣があるのに若月君が自殺するわけはありませんよ。然し私は過失死でもないと思ひます。――私は何となくこれは他殺だと思ふのです』

ニ

大阪の藥局も嚴重に調べられた。然しこれは昨日のことでもあつたし、若月本人が書いた處方箋を證據に提出した。『とに角不審には思ひました。フエニルウレタンと言ふ、どつちかと言へば普通使用しない藥でありましたし、とに角調べて見ると極量の二〇倍以上となつてゐて、而も頓服としてありましたので、不審に思ひました。けれどもこの處方箋にも、極量を超えて使用するといふ符號がついてゐました。且、御本人が直接店にお見えになつて説明がありましたので私は少しも不安心がなく調劑しました』と藥劑師は答へてゐる。

志賀博士は、殘りの藥包を證據品として、注意して持ち歸つた。そして遺骸と細君とに付添つて、しよげて東京へ歸つて來た。とに角犯罪捜査にかけては神の如き名聲を荷ひつゝある自分であると、相當な自負を持つてゐた志賀博士を、まるで嘲るやうな犯行である。――まるで、過失死又は自殺の動かぬ斷定を下させるために自分を證人として置いて殺したのだ。――志賀博士はどうしても他殺説を否定し度くなかつた。

『奥樣、若月君はフエニルウレタンと言ふ藥をいつも自分で調劑しましたか』

『いゝえ、うちの病院に藥劑師がをりますので、處方箋を書いて渡して、いつも調劑させてをるやうでした。初めはよくきいたが、この頃は量を大分餘計にしないと、きかないと言つてこぼしてをりました』

『まあ、過失死とすれば、唯一つの説明がありますね。いつも自分のうちの藥劑師に作らしてゐる量を書きまちがへて、大阪の藥局へ出した。極量を超えてゐることは確だから、符號はつけて置いた藥局の方では符號がついてゐるのだから、極量を超えるにしては大きすぎるが、とに角いゝのだらうと思つてもつた……と言ふことになるのです』

ホ

東京へ歸つて、志賀博士は若月病院の藥局を調べて見て、若月醫師が、自分の病院の藥局に提出した處方箋は相當古いものから保存してあつたから、この點は直ぐわかつた。處方量は大阪で處方したのと全く同じで、若月君の間違ひではない。

志賀博士は、一生のうちで最も不愉快な正月であつたと言つてゐる。東京へ歸つて若月病院を一と通り調べたあと、再び旅に出た。

『奥さん、若月君の死因は山中温泉にあるのです。幸ひ私が證據品を手に入れることが出來れば、犯人は直ぐあげて見せますよ』出かける時に、志賀博士は若月未亡人に、大きな聲でこんなことを言つてゐた。

警視廳の落合警部は、翌日志賀博士の電報を受けた。『ワカツキ病院の藥劑師、河原八十一を若月殺人罪の犯人としてすぐ捕へよ』とあつたので、警部はとも角も指定の通り直ぐ捕へた。然し、河原八十一は、『私は少しも知りません。私は若月先生の死なれた時の藥を調劑してゐないではありませんか』と抗議してゐた。志賀博士が歸つて來て、對決した時も仲々頑強であつた。

へ

『貴樣は處方箋よりもいつも少量のウレタンをもつたのだ。それで若月君は習慣して効かないと思ひ込み、遂に極量をはるかに超える處方を書いた。ところが、實は少しも習慣現象はなかつたのだ。貴樣は、極量以下のウレタンを入れてこれに他のものを混ぜて、ずんずん習慣してゆくと思ひ込ませたのだ。――これが殺害の準備だ。斯うして置けば、旅行か又は、貴樣の居ない時には、若月君が眞に極量以上を調劑させる機會が來る。すると、若月君は自分の處方した藥で死ぬことになる――それが今度の旅で用意した藥を紛失したために、案外早く來たのだ。殺人のトリックはそれだ―

『いゝや、私は知りません。若しさうだとしても、ウレタンに他のものを混ぜると、若月先生ともあらう方には直ぐ見破れるではありませんか』

『さうだ。その點に一番重大なトリックがあつたのだ。若月君はフエニルウレタンを用ひた。これでは、成る程若月君にも直ぐわかる。ところが貴樣は工夫したのだ。強いフエニルウレタンに、弱いエチルウレタンを混じたのだ。それで若月君は、習慣して量が益々ふゑると信じてゐたのだ―證據の調劑した藥包を、俺は探して來た』

さう言つて、志賀博士は證據品をつきつけた。

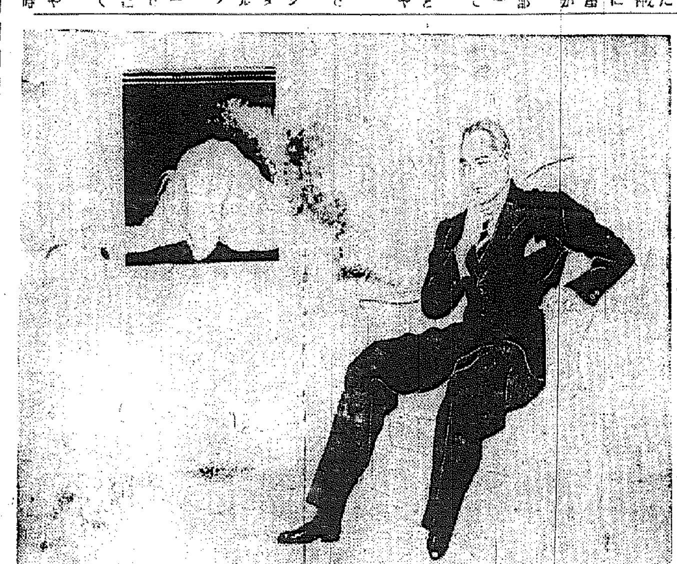
河原藥劑師はこれで恐れ入つて犯行の計畫を自白した。そして其の動機は、若い夫人に對する戀慕であつたことも併せて自白して罪に服した。

ト

志賀博士はあとで、落合警部に向つて、次のやうな苦心談をのべてゐる。

『トリックは、若月の死んだ直後にはわかつてゐたのだ。催眠藥は慣れると順次に量を增さぬと効かぬ。それで若月君は自分の處方で調劑する河原の藥が初めは効くが漸次に効かぬので、處方量をどんどん增した。河原はフエニルウレタンを初めから少しづゝ不足に入れて、然し、量だけは他のもので增して調劑したものだから若月君は、實際に習慣現象があつたと信じた。これが非常に大量となつた時に旅に出て、實際に正直な藥劑師に調劑させることになつたものだから、一包だけで死んで了つた。僕の苦心したのは、河原の混ぜたものを發見することであつたが、考へてゐるうちに、フエニルウレタンなら、混ぜたのはエチルウレタンだらうと想像した。實驗の山中温泉に紛失した藥包を探しに出かけたが、そんなものゝ見つかる筈はない。結局證據品として、河原につきつけてやつたのは僕が自分で調劑したものだつたのだ。―だが、これは專門的な、インテリ犯罪の好模範だつたね』

（終り）



あつ！何が行はれた

講談　丹波の五助（下）

悟道軒圓玉

四

これは昔から此家に在ります物で御覽の通り錆びてはゐますが、是をあなたの心と共にスッカリ研磨いて立派な物にしてこれを腰にしてお歸りなさるをお待ち申して居ります』

『ハイ／＼其の御教訓は心に確と刻み附けて置きます。左樣なれば是にてお別れ申します』

と五助は着替の衣類の包を首に卷きつけ木綿の細絆に甲掛け草鞋穿き脇差を腰に管の笠を抱へて出る門口折しも東から昇る朝日。同時に東天紅と勇ましき鷄の聲、これも成功する前兆かと五助は心勇しく再會を約してこれより京都に入り伏見から三十石の夜船で大阪に下り天王寺前に居る國者の周旋で堂島の米穀問屋八兵衞の許に米搗として雇はれた、此の問屋は土地では通称わず八と云はれる資産家です、五助は年に五兩二歩の給金、其外に搗き溢せた米が自分初め米搗一臼の所得になる、他の米搗は金を手にすると遊びに行く五助は酒と女は惡魔と思ひ良く働く、米を搗く時も一生懸命

『鐘が鳴るよう、鐘と撞木の間が鳴る』

と唄ひながら杵を踏む、其音がヅシーン、講談は儀細い點まで申上げる、米を搗く間には棄てる俵を貰ひ受けてこれを切つて莚にして賣る、決して無駄をせぬ、今日も五助が門口でザクリ／＼と俵を切つて居た

五

其時に前を通る草履取を伴れた年頃五十餘りの立派な武士がその俵を切るを見てゐたが、頓てヅカヅカと五助の前に來て

『コレ／＼、その藁を切るは脇差のやうに思はれるが』

と問ふた、五助はパラリと藁卷をとつて

『ハイ、脇差でございます』

『それを見せろ』

取り上げて熟と見てゐた此の武士

『是は結構な物だ、俺に讓れ』

『へゝ、こんな物がお氣に入りましたか』

『切れ味が良い、五十金で賣れ』

五助はこれを聽くと飛び上つて

『その半分錆びてゐる脇差が五十兩に成りますか』

『讓り受けるぞ』

『それは大變だ、わしも錆びてゐるにしては良く切れる、砥によつたら良い物であらうと思ひました、一體それを拵へた人は……』

『無銘とて其鍛工の名は判らぬが古刀であらう、五十金で賣るか』

『少々お待ち下さいまし』

と主人八兵衞に此事を話し、五十兩受取つて此の脇差を渡した、買ひ受けた此の武士は大阪城代秋元但馬守の家來齋田次郎左衞門、北濱の藤屋殿に參りし其歸りでした

さて五助は五十兩の大金が手に入つたに就き、是はおれ一代の運が打つかかつた、此の機會を逃しては出世は出來ぬと、其金で米を買つたが、人も順境に臨むと天の助があるが如く、買へば上り、賣れば下る、茲に千兩の利益を得た、是で江戸に行き藍を仕入れて大阪に送りこれで又儲けた、次は肥料にする干鰯を買占めこれで又儲けた、茲で脇差をくれた彌平の許へ此事を知らせ、京都に奉公に出て居た彌平の娘おみのを妻にして笹山の伯父の許に預けた母親を大阪に呼び、わしも何うやら人らしく成りました、さア何うぞ是だけの金を小遣として、美味い物でも食べて下さいと、それへヅラ／＼と出したは小判で三千兩、これには母親もビツクリした

五助は堂島に米穀問屋の店を開いたが、稻の暖簾三本が富貴になる動機、是も老婆の切れた鼻緒を立てゝ貰つた京菓子で彌平から脇差を贈られた、それ等を考へると人の爲に盡した其の善報、家號を三稻屋と稱し稻の丸の紋を附けたが、今日も大阪に三稻屋と云ふ米穀商があるさうです、初春の御祝儀として稻の暖簾に依つて成功した一席、讀切りの講談。

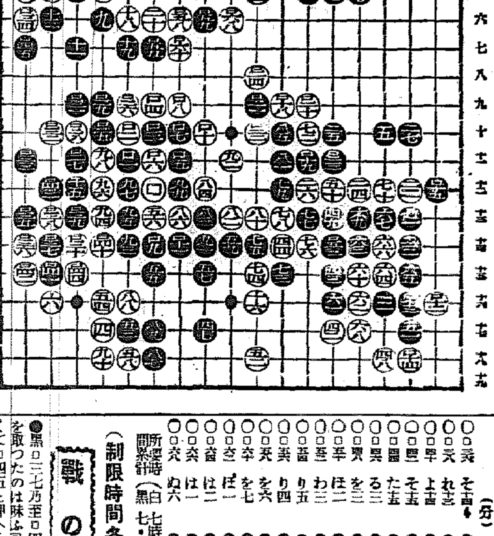
四谷怪談

×

四ッ谷怪談の蛇山庵室にも鼠が出て伊右衞門を惱ますのですが、彦三郎が以前器用で蛇山庵室の道具を手細工で作り、人形師の安本龜八にそれに合ふ人形を作らせ鼠地の鼠小紋の衣裳をつけ、仕掛物だから見せてはならないと箱に入れて置くと、夜中に漏斗（鼠鼠の衣）を着けたお岩の人形が母、妹、女中の寢て居る周圍を歩き廻り、其鼠額つてある人形を見ると鼠がぼろ／＼に噛みくだいてあつたと坂彦が申しました

日本棋院　昇段大手合戰譜（8）

四段　鈴木秀子
先二先番初段　坂田榮男



對局者の言葉

（黒）ロ二七のハネ込みはこの筋かと思ひました、ロ四五となつて相當の地がつきましたので、成算が立ちました

（黒）ロ六一、ロ六五など時間ツナギにすぎません

何にしても此邊時間がないので

（分）

[illegible]

（制限時間各八時間）

所要時間（白七時五〇分　黒七・五七）

戰の跡

●黒ロ二七乃至ロ四三著々と先手を取つたのは味ふ可き運びで、かくてロ四五と押へる事になつて、この石が完全な活路を得たのみならず十數目の地を持つ事になつて白の敗色は漸く濃厚を加へたやうである

原昌公立普通學校　清原直技

北青　北鮮倉庫株式會社

北青　片山煥太郎

漢城銀行延安支店　支店長　前田精次

義州公立農業學校

義州郡廳　義州郡農會

義州　高一清

北青　兄弟商店

義州法院出張所　田澤貞雄

義州邑長　金柄鍊

平安北道　道立義州醫院

義州金融組合　吉本五六

咸南鐵道株式會社　北青支店

北青　治濟醫院　醫師　弓恩德

義州郵便局長

義州警察署　署員一同

延白郡廳　職員一同

延白税務署　職員一同

延白警察署　署長　飯塚幾之助　警部補　吉村久顯　同　萩野繁喜代

延安消防組　組頭　森岡駒太郎　副組頭　崔承潤　部長　鈴木馨　同　永野豐生　小頭　宋善白　同　孫石崇

米穀檢査所延安出張所　職員一同

延安面協議員
酒宋徐方入宋金宋張宋張申金
井　　　江
錫圭承　昌喆命容容鉉平
勇　　　教
一萬琳武平鉉培昌言九盤顯

海州地方法院延安出張所　岩田靜雄

黃海道農會延安農業倉庫　倉庫長　安岡幸榮

延安公立農業學校　校長　坪內作之丞

延安公立尋常高等小學校　校長　高橋通

朝鮮鐵道株式會社　延安驛長　畑間榮一

延安金融組合　理事　中村格郎

咸南新乫坡鎭　木材商　姜永駿

咸南新乫坡鎭　綿布商　崔雲鳳

咸南新乫坡鎭　日用百貨　金亨昊

咸南新乫坡鎭　藥○商　黃翼燮

咸南新乫坡鎭　時計店　崔益鳳

咸南長津郡○坡里　木材商　朴傭熙

咸南三水郡○○里　木材商　崔英傑

鮮滿開拓株式會社　延安出張所

新乫坡鎭　官民申合會

咸南新乫坡鎭　木材商　阪本正男　電話三四番　振替口座京城一六七四一番

咸南新乫坡鎭　木材商　金駿聲

黃海水利組合

西鮮合同電氣株式會社延安營業所　松岡利男

黃海道延安　安岡莊藏

黃海道延安　酒井勇一

朝鮮取引所證券取引組合員（開業順）

京城府黄金町二丁目一九九　白井友之助
同　白樂三
同　成清竹松
京城南大門通二丁目一三　京城證券株式會社
京城府黄金町二丁目一九九　松山主計
同　立山榮吉
同　劉君星
同　柳來恒
同　山口恒太郎
京城明治町一丁目五九　德泰公司
京城府黄金町二丁目一九九　古野義行
同　金益證券株式會社
同　金光準
京城府明治町二丁目五七　大原證券株式會社
同　第一證券株式會社
京城府南大門通二丁目一　アジア證券株式會社
京城府黄金町二丁目一九九　東亞證券株式會社
京城府明治町一丁目一〇　小林幹三
京城府黄金町二丁目一九九　菰淵紋七
京城府明治町一丁目一七　內海清藏
同二丁目一〇　山本源作
京城府黄金町二丁目一九九　新田義民
同　二田原秋三郎
書記長　窪井逸郞

各部門の飛躍に對應　緩急當を得て施設

遞信局長　井上清

昭和第十一　春を迎ふ

瑞祥の愈よ盛んにして　聖壽の無窮なるは實に我々九千萬臣民の抃舞措く能はざる所、わけて昨年は第二親王殿下の御誕生あり、竹の園生の彌榮に榮えますこと畏くも目出度き極みである

抑昨年は朝鮮總督府始政二十五周年に相當し、半島統治實績の回顧は今更の如く一世を驚嘆せしめたのであるが、今年は更に新らしい次の四半世紀に一歩を踏み出す大きな意義の深い年である、我が遞信事業も明治三十八年韓國通信機關引繼の時よりすれば既に而立の齢を超え、更に一段の躍進を期してゐる

抑々遞信事業は社會民衆の生活と密接不離の關係にあり、之が利用は社會經濟文化の向上と共に益々增加を來すを當然とするが最近の朝鮮は都鄙を通じ異常の進展を見つゝあるに加へ、新興滿洲國の發展に伴ふ内鮮滿連絡上重要の地位を占むる所から遞信事業の各部門に渉り愈よ其の改善擴充を要求して已まぬものがあり、躍進朝鮮の實相は克く本事業の上に反映して居る譯である

今左に所管事項中の主なる點に付其の概況を一瞥して見たいと思ふ

一、郵便關係

日滿間の郵便物及郵便爲替は昭和七年條約第九號日滿議定書に基いて萬國郵便條約及日支郵便交換約定に依り互に之を交換し來つたのであるが、朝鮮は滿洲國接壤地たる特殊事情に基き種々の不便があるので、特別協定の必要あるも現在は臨時的便法として郵便物交換局の增設並に北鮮地方に發着する郵便の新京圖們線經由等を實施して利用者の便益增進に努めて居る

又滿洲國に於ては從來の新京龍井村間の航空線路を昨年十二月より清津迄延長し來つたので、之に日滿間郵便物をも搭載することゝ爲り、同日以降普通郵便局をして日滿間航空郵便物の引受及遞送事務を取扱はしめてゐる

次に朝鮮に於ける速達郵便制度であるが、之は明治四十三年の開始に係り其施行地域は京城府内のみに限られて居たのであるが利用者の便益を圖る爲從來の組織内容を改めて昨年十二月一日から釜山、平壤及仁川府にも實施した、尚之と同時に速達取扱料及居宅引受料等を値下した

朝鮮に於ける小包郵便物は從來總て特殊扱ひであつたが、速達扱ひとする小包郵便物に限つて一定の條件の下に普通扱ひと爲すことが出來るやうに改めた、之れ朝鮮に於ける普通小包郵便制度の嚆矢である、最近鮮内に於ける通信力の增大は誠に著しいものがある、中にも通常、小包郵便物は共に漸增の傾向を示し、昭和十年三月末即ち昭和九年度の實蹟に付て見るに、通常郵便物は引受配達總數六億一千五百萬餘通、又小包郵便物は五百九十九萬餘個の多きに達し、前年度に比較して前者は五千三百萬餘通、後者は四十一萬九千餘個の增加を來してゐるのである

此等の郵便物の遞送上に付ては常に迅速するやうに努めて居るのであるが、鐵道の延長に伴つて鐵道郵便線路を延長したことや全鮮鐵道時刻の改正及列車增發に伴つて内地來郵便物の遞達を圖つたこと及通常遞路郵便線路にあつては民間自動車を利用して郵便物の遞送を開始したもの二十八線路あり、其の他水路郵便線路に在つては郵便物遞送命令を改正したもの發着時刻を改正したもの等もあり

航空郵便線路に在つては發着時刻の改正、航空補助命令に依つて試驗飛行に對し通常郵便物の航空遞送を試行したもの等があつて、郵便線路一日平均延粁（遞）程は通常線路三萬四千八百十五粁、鐵道二萬三千九百四十七粁、水路五千四百十九粁、航空一千百四十八粁に及び、水路と航空は前年度と大差はないが、鐵道以外の陸路に在つては九百四十粁、鐵道に在つては二千四百八十三粁の增加を示し、全般的に見て相當進捗すること、爲つたのである

之と同時に郵便の集配に付ても施設したことが少くない、即ち郵便區の改正、市内集配の改正郵便區市外他で通信力の旺盛な地域に對して集配回數を增回したものも相當にあり、就中大都市に於ける小包郵便物其他の大量郵便物の集配には自動自轉車を使用するとしたり又市外集配區で道路良好な區間に對しては自轉車に依る集配を爲さしめて集配の敏速を圖

以

つたものが七十五區劃あり、此の方面に於ても著々改善の實を擧げて居るのである、尚輓近高層建築物、デパート等の增加したるに伴ひ、此等關係者の郵便函利用上其構内に郵便函を私設したいとの希望を有する者多きを加へた爲私設郵便函規則を制定し之を設備し得るの制度を認めた

一、郵便爲替の狀況

朝鮮に於ける金融機關は逐年增加しては居るが、併し送金機關としては何と謂つても郵便爲替が大衆的であり利用者多く、從つて一般商工業の發展に伴ひ其の取扱高は漸次增加の一路を辿り、昭和九年度に於ては受拂口數七百六十萬餘件、其の金額二億四千六百萬餘圓と謂ふ厖大なる數字を示し、前年同期に比し口數に於て約一割六分弱、金額に於て一割八分強の增加と爲つて居るのである、更に昭和九年八月より開始したる日滿小爲替に在つては實施後滿一箇年を出でずして其の取扱高口數五萬六千餘件、其の金額七十五萬一千餘圓を示して居る

一、郵便貯金

郵便貯金の奬勵は其の性質上直接一般民衆に對して積極的に働きかける必要があり、其の奬勵に當つても一般識者の協力を得常に其の努力を傾して居るので、昨年の始政廿五周年を期して此等協力者の中特に其の功績顯著なりと認められる者十名の多年の協力に對する感謝の微意を表した

次に郵便貯金預け人の所持に係る證券の保管は、大正十二年關東地方大震災以後永く其の取扱を停止してゐたが、其の後貯金局に於ける證券保管に關する整理事務も着々進捗したので、預け人の便宜を圖ると共に公債民衆化の一端に資する爲昨年一月十五日から再び之が取扱を實施することゝしたのである

朝鮮に於ける郵便貯金は昭和七年度に於ける利子の引下の結果一時著しく減少したのであるが、昭和八年度に至つて漸く其の頽勢を挽回し昭和九年度に至つては預入數三百十五萬餘人金額五千二百六十三萬餘圓に達し前年度に比較して預入數に於て一割一分強金額に於て一割七分五厘の增加を見たのである、斯くの如く郵便貯金增加の趨勢は一に年々局所の增設せられるのと當局の絶えざる奬勵に依ることは勿論ではあるが、郵便貯金が中層階級の人々の貯蓄に最も適合した制度であり、自力更生農村振興運動の徹底に依り疲弊せる農村が漸に活況を呈して來たのと、加ふるに内地方面の不作に比し我が朝鮮は一部の地方を除き概ね豐作であつた爲

全鮮の約八割を占むる農民階級の經濟狀態が潤澤と爲つたことを示すものであつて、殊に最近に於ける金融界の緩慢が此の郵便貯金の增加に一層の拍車を掛けて居るものと考へられるのである、當局に於てはまだ／＼開拓餘地のある郵便貯金に對して機會ある毎に之が宣傳奬勵を爲すと共に、貯金預入者の爲にも逐年之が取扱局所の增加を圖つて居るのである

一、電信電話

輓近鮮内各地に於ける產業の勃興と之に伴ふ地況の發展並に經濟界が漸次好調を示して來たのに伴つて、各種事業の發展を促進するに至り電信電話の需要が急激に增加の趨勢にあつたので、昭和十年度に於ては此等に對應する爲元山江陵線の增設並に大邱局外二十五局所に對し普通通信であつたものを自働印刷機通信に、又電話搬送通信であつたものを音響搬送通信に變更する等計畫し、其の内元山江陵線の增設及順安外十五箇所に於ける通信方式の變更は既に完成し其の他は目下工事中である

又滿洲國との關係が益々密接と爲るに伴つて相互間の通信激增するに至つたので、之が疏通を期する爲京城新京線外三回線增設を計畫し、其の内滿洲新京線外一回線は既に竣工したが、其の他は之亦目下工事中である

昭和十年度に於ける電話の新設開通申請受付數は八千二百名を增加し、前年度の二千六百名に比較して實に三倍餘の多數に達した、又地方都邑に於て新に電話交換業務の開始を要望するものが多數に上つたが、經費の關係上既設局所に對し加入者五百四十名を增設し又咸鏡北道羅津外十三箇所に電話交換業務を開始し、其の加入者五百七十名と共に其の殆ど全部を昭和十年内に開通せしめた

京城の電話加入者は逐年著しき增加を示し、京城中央電話本局の交換機は其の收容餘力が乏しきに至つたので、此の機會に於て現代に於て最も理想的とする自働式交換を實施することゝし、京城本町一丁目に近代式鐵筋コンクリート建の局舍を新築すると共に昭和七年度よりの繼續事業として約百四十五萬の巨費を投じて工事中であつたが、朝鮮總督府始政二十五周年記念日たる昨年十月一日午前零時を期して僅三分間にて從來の共電式交換機と無事切替を了した

之より先昨年三月一日電話交換業務を開始したが、同地の將來が發展すべき特殊性のあるのに鑑み一躍自働式交換を實施し、又清津郵便局は昭和八年爲有に罹りたので之が復舊を機會に同局の電話交換方式を自働に變更することゝし目下工事中で本年の中頃には之が開通を見る見込である

尚新義州及び元山は何れも加入者九百名に達し、現在の磁石式交換機に於ては其の交換取扱ひ困難と爲つたので、京城本局の自働式實施を機會に、其の撤去した共電式交換機を利用し、右兩地の交換方式を變更することゝし目下工事中であるが、之も本年の中頃には開通の運びと爲る見込みである

内地朝鮮間の通話開始以來其の取扱數は日々增加の趨勢を示し同線は極度の輻輳を來すに至つたので之が疏通の緩和を圖る爲大阪京城間に電話一回線を增設した、又對滿洲關係に於ても京城新京線外六回線を計畫し目下何れも工事中である

無線業界の進展に伴つて無線關係法令の改正の必要を認めて居たのであるが、昭和十年三月一日より朝鮮船舶安全令の實施を機とし之が劃期的大改正を行つた、改正法令は府令等六、七件に及ぶが、其の内主なるものは、私設無線電信無線電話規則の改正及び無線方位測定規則の制定である

電信電話の施設に付ては大體右の通であるが、電信事務及電話通話事務を開始したもの及び開始準備中のもの二十數箇所あり此の外南鮮又は西鮮の島嶼に於ける漁業地に郵便局所の臨時出張所を設置し、之に無線電信を裝置し、電信事務を取扱つて便宜を與へたものが數箇所あるのである

而して昭和九年度に於ては電報の總通信數一千四百二十萬餘通で昭和八年度の其れに比較して百四十四萬餘通（一割強）の增加を示し、又電話加入者及通話度數は加入者數三萬七千六百九十四人、その通話度數は三億四千六百萬餘度となり、昭和八年度に比較して其の加入者數一千四百六十五人、通話度數一千七百十五萬餘度の增加を示して居るのである

斯くの如く郵便、電信、電話、郵便爲替、郵便貯金等何れも其の利用者及取扱件數著しく增加の趨勢にあることは、通信機關が、吾人の社會生活乃至經濟活動に於ける手足であり同時に耳目であることを考へる時、若き朝鮮が今將に躍進し續けて居ることを如實に物語るものである、が、昭和十年十月一日現在に於ける郵便局所、電信局所及電話局所の總數は九百五十二局所に過ぎず、其の數は半島の面積に比較して甚だ不十分なりと謂はねばならない

交通の脈絡、人口の稠密、其他通信機關利用の狀況等を稽へ今後更に局所の增設擴充、遞送集配の改善電話回線の增設等其他幾多の改善を企圖しなければならないのである

放送無線電話が國家社會に甚大なる貢獻を爲しつゝあることは今更多言を要しない所である、而して昨年中に於ては對外的には數千粁を隔てた歐米諸國と本邦との間に國際親善交換放送を十數回に亘つて行ひ、朝鮮に於ても之が中繼放送を爲して非常なる好評を博した、又對内的には朝鮮より朝鮮の特殊事情を每月三回乃至四回内地に向け放送し、之を全國中繼放送として内地に紹介を爲したことや鮮内に於てはマイクロフォンの臨時施設を數十回に亘つて許可し野外進出を多からしめ、自力更生及國民精神作興運動、心田開發運動等には大いに寄與せる所があつたのである

而して放送無線電話事業が最近著しく進展しつゝある趨勢に鑑み、朝鮮放送協會に於て放送網計畫の第一步として昨年九月に釜山放送局を設置し更に昭和十年及び十一年の兩年度には平壤にも之を設置せんとして著々其の準備を進捗せしめて居る、本計畫は實に聽取施設を簡易ならしめるのみならず半島文化開發促進上極めて緊要且適切なる施設に屬するものである

又技術的方面に於ては釜山放送局の施設と相前後して東萊無線中繼所の新設及京城釜山間を有線を以て連絡する所の中繼線設備を完成せしめたが、此等の施設は何れも半島放送無線界の一大飛躍とも謂ふべきもので、今や聽取者數も四萬八千名を突破し、其の普及發達は之亦洵に目覺しきものがある

尚昨年末より實施した鮮滿間の夜間に於ける交換放送は多大の效果を收めて居ることを附加へて置きたい

一、航空

民間航空事業遞進の重要性に鑑みては當局としても夙に之を痛感しつゝある所であり航空之が充實擴張に努めつゝあるのであるが、事業の性質上比較的多額の經費を必要とする關係上、他の遞信事業に比較して急速なる事業の發展を助長し得ない憾はあるも、之に關する諸般の施設改善を企圖しつゝあり、此等の具體化は唯時期の問題である

即ち國際關係に於ては既設飛行場整備又は飛行場の新設等に依り内鮮滿間の飛行をして一層スピード化することを企圖せねばならぬ、新義州飛行場の内容の充實完成を計りつゝあることも又、多年の懸案たる清津飛行場の開設を見るに至つたことも其の企圖の現れの一端である

而して清津飛行場は舊臘十二月三日之の開場式を擧行したのであるが、同日以降滿洲航空株式會社は其の新京龍井村間の定期航空路を延長して清津龍井村間に週三回營業を開始し、我朝鮮當局に於ても先には愼飛行士をして北鮮コースを飛行せしめ、今回又日本航空輸送株式會社をして月一回の連絡試驗飛行を實施せしめることゝ爲つて居るのであるが近く之が定期航空を實現させたいものと希つて居る、尚新義州航空無線電信局の設備も漸く完成され之が開局を見ることと爲り、航空の安全上寄與する所少からざるものあるを信ずる

民間航空方面の發展に於ては昨年一月四日附朝鮮總督府令第一號を以て朝鮮航空機規則の發布があり、之に依つて更に民間航空の發達に拍車をかけることであらう

從來朝鮮には優秀なる操縱士と相當數の航空機を擁し乍ら、之が利用方面に於て皆無の狀況にあつたが、航空思想の普及と共に之が利用方面も漸次開拓されるに至つたことは同慶に堪へない、即ち昨年十月には金飛行士が中央日報社の囑託として白頭山撮影飛行を完成した外、平安北道警察部の藤田飛行士は其の國境警備飛行に活躍し、又愼飛行士は朝鮮日報社の囑託として京城—大邱、京城—咸興、京城—木浦、京城—裡里—新義州間の新聞輸送に活躍した

茲に特筆大書しなくてはならないことは愼飛行士の東亞連絡大飛行の完成である、愼飛行士は始政二十五周年記念事業として豫て計畫中の東亞連絡飛行を坂田機關士と共に昭和十年九月に決行、十六日京城を出發し、羅南、龍井村を經て滿洲國に入り、嵐雉を冒して途に新京—奉天—錦州—濟南—南京—上海—南昌—大連—京城と豫定の第一コースを飛んで九月二十八日歸城、更に京城東京間の往復飛行を敢行し茲に見事東亞連絡親善大飛行の使命を果し我が朝鮮民間航空の爲に萬丈の氣を吐いたのである、此の全コース總距離約八千粁、最新の優秀機を以てすれば敢て難事と稱し難いかも知れぬけれども當サルムソン機を以て克く之を完成し得たことは其の手腕の特に優秀なることを裏書するものであり、朝鮮航空獎勵規則初まつて最初の獎勵金を獲ち得たのは當然であつた

一、簡易生命保險

朝鮮簡易生命保險事業は其の創始後僅々四箇年半に過ぎない昭和九年五月上旬既に加入件數五十六萬、其の契約保險金額一億圓を突破するの盛況を見、其後の業績も亦驚異的躍進振を示し、本年初頭の實績は其の件數八十一萬二千を超え、其の保險金額一億五千百萬圓に達し、年々順調な伸展膨脹の一路を辿つて居る狀況である

本事業が斯様に急テンポの發達を示現して居るのは之固より當局者の努力と民衆の本事業の趣旨の理解を深め來つたに因るものではあらうが、更に他の民營保險會社の場合と同じく最近の經濟界の影響を受け、契約募集を容易ならしめたことも與つて力ありと思料せられるが、一面農村振興運動の影響が本事業に反映したと見ることが出來るのである

而して之が積立資金の運用に至つては社會事業或は公共事業の資金として現在一千四百餘萬圓を融通して居るのであるが、昭和十一年度積立金運用額の見込は六百二十萬圓で、之を公共貸付に四百萬圓、地方債引受に百萬圓、保險契約者貸付に八十萬圓と豫定配分して居る

之が貸付利率は金融市場に於ける長期資金の大勢に鑑み現行貸付利率五分六厘以上の利率を引下げ、最高を五分六厘に止め、五分乃至五分四厘は之を据置き從來の五分八厘を五分四厘に、五分八厘及六分を孰れも五分六厘に引下げたのである

次に貸付事業に付ては從來の貸付事業は全部撤廢し、新に經濟更生、造林及林地設定、公營營業の三種目を設けた、尤も從來の貸付事業中災害復舊事業は之を災害復舊資金に改め、小學校及普通學校は之を分離し私立のものを含め、又埋立事業は公有水面埋立以外の埋立事業をも取入れることとした、尚地方債引受の場合は年四分五厘程度を以て融通することと爲つて居り、資本利用者側には非常に有利と爲つて來たのであるから、本積立金の投資は全鮮の凡ゆる方面に及び社會公共の爲に貢獻するものが多々あるのであらうと思ふ

一、電氣事業

電氣事業に付て昨年中の主なるものを擧げると朝鮮電力株式會社及朝鮮送電株式會社の事業開始、咸南合同電氣株式會社の成立、長津江水電株式會社の創設、京城電氣株式會社及釜山瓦斯電氣株式會社の電氣及瓦斯料金の改訂等である

昭和十年五月江原道寧越に同地方の豐富なる無煙炭を燃料とする大規模火力發電所を建設し、同所より京城を經て大邱に至る亘長約百六十粁の十五萬四千「ヴォルト」送電線路を建設し、大興電氣株式會社、朝鮮ガス電氣株式會社、大田電氣株式會社及南朝鮮電氣株式會社に電力の協定供給を爲さんとする事業の經營を朝鮮電力株式會社に許可せられた、右の寧越火力發電所は曩に決定せられたる第一期統制計畫の發電計畫に於てその建設を豫定せられた重要なる火力發電所であり

又大邱送電線路は送電網計畫に所謂送電幹線である、會社は昭和十二年末迄に事業を開始する豫定であるが、之が實現の曉には南鮮及湖南兩地方に於ける電源は大半右の寧越火力發電所に統一せられるものであつて、長津江水電株式會社及朝鮮送電株式會社の事業開始と相俟つて全鮮電氣事業の第一期統制の殆ど大半を完成するものである

出力三十二萬「キロワット」に達し朝鮮に於ける電力統制の根基を爲す咸鏡南道の長津江水系長津江水力發電所より平壤を經て京城に至る亘長約三百粁の十五萬四千「ヴォルト」送電線路の建設は昭和七年四月長津江水電株式會社に許可せられ、又送電網計畫に所謂送電幹線である亘長約二百粁の十五萬四千「ヴォルト」送電線路を建設し、右の長津江發電所の發生電力の一半を西鮮及中鮮地方に輸送する送電事業は昭和九年四月朝鮮送電株式會社に許可せられた

咸鏡南道には長津江水力及赴戰江水力等大規模優秀な水力が存し、而も此等の水力は漸次開發せられつゝあるので、地元である咸鏡南道地方に此等水力の豐富にして低廉な電力を普及せしめるのは同地方の產業開發上最適切且緊要とする所である

然るに咸鏡南道には數箇の小事業分立し居る爲右の如き豐富なる電力も之を普及せしめることが困難であつたが、元山水力電氣株式會社を中心とし北鮮電力咸南電氣及北青電燈の四社が合併し以て設備の合理的統制を完成し電氣の普及を圖ることゝ爲り昨年十一月一日咸南合同電氣株式會社の成立を見たのである

之に因つて事業は將來益々健全なる發展を遂げ、產業の發達興隆に寄與する所が勘少からざるものがあるであらうと思ふ

昨年中に於ける電氣瓦斯料金の改訂中其の最たるものは京城電氣株式會社の夫れであつて、右は昨年十月一日を以て改訂せられたのであるが、其の改訂に於ては定額燈、從量燈、電動力、瓦斯の各種料金に對し全面的値下を行つたもので別けても動力料金の値下に主眼を置いたものである

今値下の率及新料金の程度等に付概略を述べると、値下の率は定額燈一割二分、動力一割五分瓦斯六分であつて、舊料金との差は一箇年に付約六十七萬圓の減收となる見込である、斯く値下した結果一般地料金を適用する京城、仁川の新料金に付ては十二瓦燈に約十倍する燈數を持つて居る東京市の夫れと同一と爲つたこと、然も從量燈料金は單價を値下すると共に制限燈數を三燈と爲したのに依り六大都市の料金よりも低廉と爲つたこと及び小口電動力料金は格段の低下を見、内地六大都市の料金を凌駕する程度に達したのである

其の外百馬力を超過する大口動力需用家の料金も此の小口動力料金低下に準じ夫々値下すると共に瓦斯料金も可成りの値下を行ひ殊に設備料は半額に爲つたのである

昭和四年五月及同五年七月倫敦に於て締結せられた海上に於ける人命の安全の爲の國際條約並に國際滿吃水線條約に基き世界主要海運國は孰れも夫々國内法規を改廢して兩條約に加盟したが、我朝鮮も近年海運の發達特に著しく、出入船舶激增して大いに其の面目を改めたが、海事法規に付ては内地と法域を異にする關係上本兩條約に付ても内地と共に加盟を宣言するの必要を認め、朝鮮船舶安全令其の他の附屬法令を制定實施し、昭和十年七月十一日兩條約に加盟し、同九月十一日より内地と共に其の効力を發生するに至り、茲に我朝鮮海事も世界主要海運國に同列することゝ爲り、朝鮮に於ける船舶取締方法も世界的と爲つた譯である

次は命令航路の施設を一瞥しよう

昭和十年四月更新命令に付ては、滿洲國成立し京圖、拉賓兩鐵道の開通に伴つて北鮮及南滿洲對内地間の交通取引激增の趨勢に鑑み、從來施設の新潟北海道北鮮寄港航路にては船腹不足を告げ、利用上支障あるので之を北鮮新潟間の連絡航路に改め且施設を增大（中略）

今や日滿經濟ブロックの確立と半島の資源に對する内外の認識の深まるに伴ひ、新らしき四半世紀に其の第一步を踏み出した朝鮮は全く面目を一新して茲數年間に總ゆる部門に亘つて飛躍的な發達を遂げることであらう、我遞信事業としては此の情勢に對應して緩急其の當を得た施設を爲し此の飛躍に備へると共に一方事業の世界的なるに據へ、航空に海運に無線に是亦最大の關心を拂ひ、絶えず改善施設を要するを以て此の方面に付ても極心努力國運の發展に寄與したいと考へて居る次第である

南鮮會社松汀里支店長　淺野保之殿

瀨戶醫院　瀨戶友顯殿

松汀里學校組合管理者　白見卯三郎

全南松汀里　長島祗重

恭賀新年

中央商工株式會社
合資會社京城醸造工業所
株式會社ソウル醸造工社
大亞醸造工業株式會社
合資會社朝鮮醸造工業所

安田慶淳

金思演

本派本願寺　朝鮮開教教務所　朝鮮別院　京城府若草町

京城羅紗商組合

櫻麥酒株式會社　京城出張所

京城府西四軒町　南山莊　電話本局一五一三番

京城印刷組合員名簿（昭和十年一月現在）（代表者いろは順）

一、特別會員
井上商店　井上芳太郎
岩田鐵工所京城分工場　岩田龜三郎
合資會社王鮮會　石井一郎
初田活版製造所　初田仁三郎
日本紙業株式會社京城支店　本宿清太郎
合資會社萩原紙店　興田紹一
ゲルトネル商會京城支店　何維遂
山本榮次郎商店京城出張所　川地一夫
合資會社萩野商店京城支店　匠富次郎
日本タイプライター會社　竹内一郎
大阪印刷インキ製造株式會社　田中虎太郎
京城出張所
中山洋紙店　中山秀一
矢野商店　矢野佐七
合資會社朝鮮ローラー社　文武郷
日東洋行京城出張所　武藤馬吉
合名會社近澤商店洋紙部　宮崎龜吉
以上十四名（同前）

一、通常會員
犬養印刷所　犬養藤四郎
大海堂印刷株式會社　播本恒太郎
橋本印刷所　橋本元
早坂製本所　早坂春次郎
西尾印刷所　西尾四良
西村印刷所　西村政市
近澤健藏商店　近澤健藏
太平堂印刷所　大塚重治
大谷印刷所　大谷久藏
大塚商會印刷所　大塚榮
門田コロタイプ印刷所　門田房太郎
片岡印刷所　片岡龜次郎
柿木印刷所　柿木一
共盛堂印刷所　橫山幸七
谷岡印刷所　谷岡貞七
北内印刷所　高橋熊吉
旭精版印刷所　中島範三郎
野津集文堂印刷所　野津直保
山口印刷所　山口浦造
山田印刷所　山田寶榮
山本印刷所　山本範三郎
八杉印刷所　八杉常藏
博文社印刷所　松田吉太郎
不二印刷所　藤田民治
京城日報社　兒島吉治
大和商會印刷所　江口寬治
江里口印刷所　江里口義一
朝鮮印刷株式會社　赤崎參輔
合名會社近澤商店印刷部　澤田佐市
佐藤印刷所　佐藤石松
帝國地方行政學會印刷所　酒井與三吉
開壽堂印刷所　清水豐治
白石商會印刷所　白石秀信
京城荷札製造所　廣谷卯太郎
以上三十二名

京城府黃金町二丁目　花月食堂　電話本局五三五七番

大海堂印刷株式會社

東洋オフセット印刷株式會社

森永製品　朝鮮販賣株式會社

京城府長谷川町　盛文堂　電話本局四一六番

京城府本町二丁目　日韓書房　電話本局一四五番

京城府明治町二丁目　秋田株式現物店　電話本局五一五九番

京城　三中井

京城府永樂町二丁目　共濟無盡株式會社　電話一六〇〇番

京城府貞洞　京城放送局

京城府本町二丁目　花月　電話本局五七番

京城府本町三丁目　近藤ラヂオ商會　電話本局四九二六番

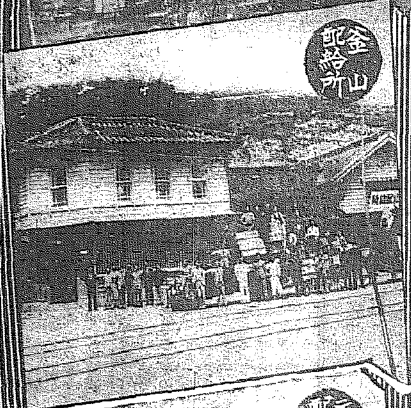
謹賀新年

現在의京城本店

新築中의京城本店今夏落成予定

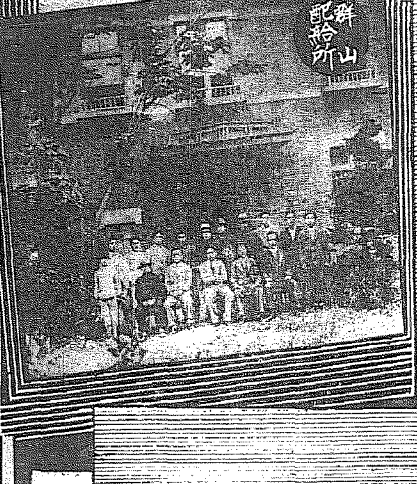
社長朴興植

大阪仕入部



金山配給所

元山配給所

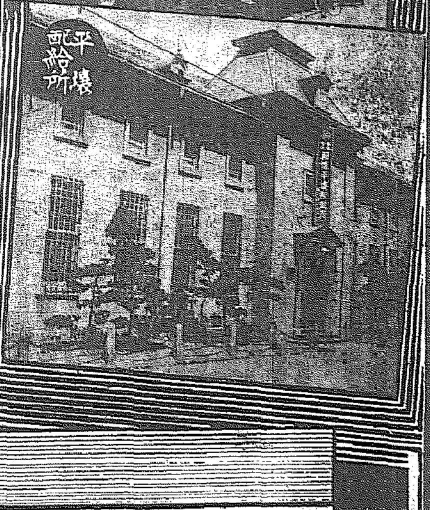


群山配給所

平壤支店

模範連鎖店

京城配給所



平壤配給所

全鮮連鎖店配置圖

一九三六年의和信全貌

鮮一紙物株式會社

和洋諸紙都賣元
新聞卷取紙輸入元

社長 朴興植
支配人 李奎載

京城·鍾路
電話 光 一六九〇番 一〇二〇番 一〇三〇番

여러분의百貨店

株式會社 和信

社長 朴興植
專務 李基𣳾

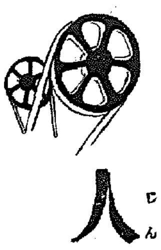
京城·鍾路
代表電話(光)二三八〇番

大同興業株式會社

土地建物及農場經營

社長 朴興植
常務 李種建

京城·鍾路
電話(光)四〇〇番



本紙一萬號記念三千圓懸賞一等當選　禁無斷上演映畫

人生謳歌（20）

森岡多作
寺本忠雄畫

不愉快な恩人（四）

相川邸の玄関には、既に四五臺の自動車が、物々しく乘りつけられてゐた。

『私の家御存知なの？』

萬里子の睨みのこもつた眸が、振り返つて訊いた。

『いや。』

青年は玄関に自動車を停めると先驅晴い顔をして降り立つた。

『どうぞ、御降り下さいましな。』

萬里子も助手臺から降り立つと

慇懃に石段の方を指さして、自分で促すやうに先に立つた。

『いや、失禮します。』

青年は急に身を翻すと、もう小刻みな早足で歩み出してゐた。

萬里子は石段の中途から、吃驚して睨りながら言つた。

『では、明日でも御禮にうかがひますから、お名刺でも戴けないでせうか……』

『いや、いゝですよ。』

『では、茲に書き取りますから、御名前と御住所を教へて戴きますわ。』

『いや、いゝです。いゝです。』

青年は怒つたやうにから言つて、ぷいと走り出した。

『あツ、もし……』

萬里子はそのあとを追つて、門まで走り出したが、其處にはもう青年の姿は見えなかつた。

疲れて放心狀態のやうになつてゐる萬里子の胸に、烽火のやうな憤りが、むらむらと燃え上つた。眦がギラギラと瞋恚に燃へて、瀧詩に拳が、わなわなと顫へた。

『莫迦！莫迦！莫迦！』

萬里子は青年の去つて行つた後姿を、限りない憎惡と侮蔑の視線でなぞりながら、ヒステリツクに、から叫んだ。そして其處に當の青年をもゐるかのやうに、亢奮して呟いた。

『莫迦！私はこんなにへ・り・く・だつて應に對てゐるのに、私はこんなにへ・り・く・だつて御恩報じをしようとしてゐるのに、それを受けないなんて、非文明人のわからずやだわ。報ひ先のわからぬ恩で、一生レデイーの頭を押へるなんて、時勢遅れの大野蠻者だわ！』

萬里子は浮浪人に逢つたよりももつともつと不愉快な憤りとく・や・しさに彌り立つて、無茶苦茶に石段を駈け上つた。

と、其の時、邸内から萬里子の捜査隊がどやどやと現れた。

『やあ、お嬢様ちやございませんか……』

最先に、運轉手の山邊がとんで來た。

『おゝ、萬里子さん！』

堅が人前もなく、萬里子へとびついた。

『まあ、御無事でよかつた。』

一同は萬里子を中にして吻とした。

萬里子は急に周圍が明るくなるのを感じると、もう寸前の不愉快を忘れてゐた。萬里子は得意につんとくり顔を突き出して、自動車の方を示して言つた。

『どう！私、もう發見されてよ。』

『おや、おや、此れは驚いた。』

山邊は眼を圓くして、自動車の方へとんで行つた。

堅はふと幸福に胸をとゞろかせながら、萬里子の手をとつて言つた。

『僕はもう、戰慄は御免ですよ。』

萬里子は唯ニッと笑つて、美しい眼で睨んだ。

『はゝゝゝゝ。』

他の者も一緒に笑つた。

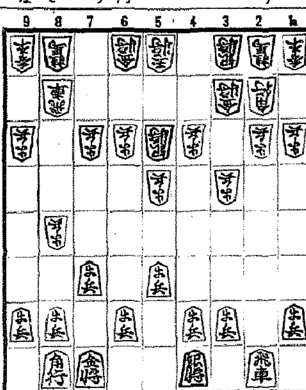
萬里子はまるで凱旋將軍のやうに、華やかな一同に取卷かれて、意氣揚々と自分の室に歸りながらふとあの青年のことを思ひ出したと、忽ち、恍惚に近い今迄の幸福感が、灰色の不快にぐる／＼と塗り潰されてしまつた。

將棋新手合（二）

（圖は五三銀迄の局面）

於東京市日本橋區濱町二ノ七　溝呂木將棋所

平手　先　四段▲松下力（東京）
　　　　　四段△梶一郎（東京）



△梶氏持駒　歩

△五七銀　▲四一玉　△六九玉　▲七四歩　△二六歩　▲八六歩
△同　歩　▲同　飛　△八七歩　▲八二飛　△九六歩　▲九四歩
△四六銀　▲四四歩　△五五歩　▲同　歩　△同　銀　▲六四歩
△四六銀　▲四五歩

溝呂木七段講評

（先手）敵銀に對抗する意味に、五七銀と上るのは一番紛れのない手段である

（後手）七四歩と突いて、敵の陣營をみたが、作戰を明示しないので、鬼に角八六歩と突いて飛車先の歩を交換するのは當然である

（先手）九六歩突きは、順序とすれば一六歩と突くのであるが何にか作戰があつたか

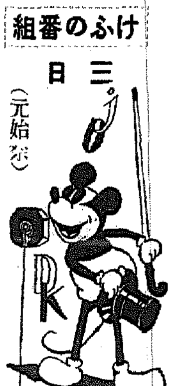
（後手）九四歩突きは面白くない、玆は一四歩と突く處である

（先手）四六銀上りは急戰を狙ふ强襲手段である

（後手）同歩は面白くない、玆は四二銀、三五歩、四三銀と持久戰する處である

組番のふけ

三日（元始祭）



午前七時三〇分（東）御製謹話（三）後醍醐天皇御製　永田秀次郎

同八時　今日の天氣見込

同九時三〇分（東）獨唱　伴奏　アルメリア管絃樂團　平山美代子

一、イ、鼠の子　ロ、鼠の餅つき　ハ、ちうちう鼠　ニ、日の丸の旗　ホ、道中双六　ヘ、背い小松　ト、あの山この山　チ、べタ

二、イ、皇太子さま　ロ、皇子さま　ハ、初日の出　ニ、けきよ〃、ホ、鼠のお家　大川澄子

同一〇時（東、大）新春吟詠（短歌）

（東京）一、我が敷島の道　子爵　前田利定
二、新年の和歌　法學博士　鵜澤總明
（福岡）三、新春を詠ふ　文學博士　高田保馬

正午（東）時報、氣象通報　ニユース

午後零時三〇分（東）雅樂
一、催馬樂新年三段　二、胡飲酒　三、酒胡子　宮内省樂部

同一時一〇分（各局）各地俚謠巡り
（熊本）俚謠　熊本市連中
（廣島）俚謠　中國地方の遊戲　一、めでたいなめでたいな　二、春が來た、春が來た　唄　竹内ゆき　加藤芳江
（大阪）俚謠　棟上げ音頭　兵庫池内組連中
（名古屋）俚謠　神樂歌　一、岩戸開きの舞　二、四つの舞　愛知縣北設樂郡御殿村有志
（東京）俚謠　一、信州松前三下り　尺八　神田天水　唄　繁田雪齋　三味線　梅田豐月
二、おいとこ節　唄　畔上三山　同　高瀨市水　尺八　榎本秀水　三味線　石井久子　同　近春子　笛　上野松月　太鼓　青木好月
（秋田）俚謠　秋田萬歲「御門開萬歲」　萬歲　菅原松治　才藏　木村吉松
（札幌）追分節　唄　鈴木晴月　尺八　菊池亞海

同一時五分（京）ラヂオヴァラエテイ　初春都風俗
一、萬歲　二、鳥追　三、大黑舞　四、御助お福　五、春駒　六、懸想文賣り　七、太神樂　八、傀儡師　九、猿廻し　十、チヨロケン　京都風俗研究會　解說　江馬務

同一時三五分　歌謠曲「映畫スター競演」
（東京）（一）新興キネマ　伴奏　新興キネマ管絃樂團　1、山の人氣者　立松晃　2、何故笑ふモナ・リザ　御影公子
（東京）（二）P・C・L　伴奏　P・C・Lオーケストラ　1、（イ）ベテイブープ（ロ）朝のコーヒー　神田千鶴子　2、野良の春　千葉早智子
（東京）（三）日活　伴奏　テイチクオーケストラ　1、酒の中から　江川宇禮雄　2、起き上り小法師　石井美笑子　3、波止場がらすの歌　江川宇禮雄
（東京）（四）松竹キネマ　伴奏　松竹管絃樂團　1、おしやれしやれても　松井潤子　2、浮世しぐれ　若水絹子　3、木場の雨　及川道子
（大阪）（五）松竹下加茂　伴奏　松竹管絃樂團　1、（イ）江戸みやげ子守唄（ロ）大江戸出世小唄（ハ）しやぼん玉の唄　高田浩吉

同三時四〇分（東）氣象通報
同六時（大）童話劇　海上雲遠（テキスト一四ページ）　大阪放送童話劇協會
同六時二〇分（東）コドモの新聞　關屋五十二
同六時二五分（東）趣味講座　日本畫を新しく吟味せよ　荒木十畝
同七時　ニユース、天氣見込
同七時三〇分（東）狂言　若菜　海阿彌　野村萬齋　大名　佐野平六　大藏女　野村萬造　同　野村萬介　同　高村雲耳
同七時五〇分　義太夫　近頃河原達引　堀川猿廻しの段　淨瑠璃　竹本組太夫　三味線　野澤兵一
同七時五〇分（釜山ローカル）新日本音樂と三曲
一、新日本音樂　遠砧　箏　小島初子　三絃　五月女初子　尺八　津曲斌山
二、三曲　松竹梅　箏　小島初子　三絃　五月女初子　尺八　津曲斌山
同八時二五分（東）常磐津　船辨慶萬歲（乘合船）　淨瑠璃　常磐津松尾太夫　同　常磐津三東勢太夫　同　常磐津宮尾太夫　同　常磐津千東勢太夫　三味線　常磐津文字兵衞　同　常磐津八百八　上調子　常磐津梅治
同八時五五分（東）ヴアイオリンと管絃樂　ヴアイオリン協奏曲　第七番、ニ長調　モーツアルト作曲
第一樂章　アレグロ・モデラート　第二樂章　アンダンテ　第三樂章　ロンド・アレグロ
ヴアイオリン　諏訪根自子　新交響樂團　指揮　アレキサンダー・モギレフスキー
同九時三〇分（東）時報　ニユース・氣象通報・翌日の番組・ニユース再放送

第二放送

同一〇時　ニユース（京城釜山）
午前零時五〇分　マンドリン合奏　高橋アンサンブル
同一時一〇分　唱劇論叢　瑩玉
同一時四〇分　レコード
同六時　童話劇　鄭寅顯
同六時二五分　講演
同七時三〇分　ラヂオスケツチ　申不出
同八時　俗謠　崔聲成
同八時三五分　麗夫歌外
同八時五五分（東）ヴアイオリンと管絃樂　吳次石外

あすのきゝ物　四日（土）

午前七時三〇分（東）御製謹話（四）聖武天皇御製　陸軍大將　鈴木莊六
同一〇時（東大）新春吟詠（俳句）　關田主計（外）
午後零時五分　和洋合奏　江東管絃樂團
同六時（東）童話　初夢で拾つた運の玉　安倍季雄
同六時二五分（東）趣味講座　暦の話　理學博士　平山清次
同七時三〇分（大）室內樂　ピアノ　レオニード・クロイツアー（外）
同七時五五分（大）歌謠曲　楠木繁夫
同八時一〇分（東）琵琶　桐一葉　榎本芝水
同八時三五分（東）歌謠曲　小唄勝太郎（外）
同八時五〇分（東）淸元　御名殘押繪交張　淨瑠璃　淸元榮壽太夫（外）
同九時一〇分（大）歌謠曲　東海林太郎

ヴアイオリンと管絃樂

午後八時五十五分

ヴアイオリン　諏訪根自子
指揮　新交響樂團　アレキサンダー・モギレフスキー

ヴアイオリン協奏曲　第七番　ニ長調　モーツアルト作曲
第一樂章　アレグロ・モデラート
第二樂章　アンダンテ
第三樂章　ロンド・アレグロ

モーツアルトの數多い作品の中、各種獨奏樂器の爲の協奏曲を擧げると五十曲の多きに達し、ヴアイオリン協奏曲のみでも七曲ある。これは第七番で一七七七年の二月から九月にかけて與筆された。丁度モーツアルトが二十一歲の時で、此の曲を書き終へて間もなく故鄕ザルツブルクを離脫し、一七七八年ウイーンに居を定める迄の旅行生活に入つたのである

第一樂章　アレグロ・モデラート　正規のソナタ形式で、律動的な力強い第一主題、これと對比的な優しい第二主題が柔かく響くと獨奏ヴアイオリンの頭奏になる

第二樂章　アンダンテ　モーツアルト特有の優雅な典型的作品で、管絃樂と呼應し乍ら明るく輕々と歌ひつゞける

第三樂章　ロンド・アレグロ　曲頭の主題が管絃樂によつて奏されると直に若々しい力に溢れたソロが颯爽と現れる

新春吟詠（短歌）　午前十時

紀元二五九六年、昭和十一年の春もうらゝかに明けてのどかな正月である。非常時を謳歌される本年も兎も角、松の内はまづ太平無事とこもかしこも常の苦勞を忘れての長閑氣分である。ラヂオもこゝで一つずつとくだけて、平素は堅い方面に御活躍の政治家、學者、實業家等一流名士に依賴して、その御趣味の方面即ち閑日月を紹介して貰はうとするのである。題して『新春吟詠』今日より三日間にわたり午前十時より十一時まで、短歌、俳句、漢詩と三つに分けて各三名宛選つていたゞくことになつてゐる。本三日は先づ短歌で、元醍相の前田子爵、辯護士會の大立物鵜澤博士（以上東京より）京大教授高田博士（福岡より）の三氏が語られる

獨唱　前九時半

伴奏　アルメリア管絃樂團
作曲　中山晉平
平山美代子

一、（イ）ねずみの子　北原白秋作詞

ほら／＼ちうちやい、ねずみの子、生れたばかしよ、このしつぽ、ちよろりと一匹、つまんでチユウ、ないてもお目々は、まだ見えぬチユウ

ほら／＼ねんねの、ねずみの子、かあさん正月、まだですか、ちよろりと一匹、つまんでチユウ、ないてもあんよはまだたてぬチユウ

ほら／＼もゝいろ、ねずみの子、お耳の中まで、まつかいね、ちよろりと一匹、つまんでチユウ、ないてもお手々はまだあかぬチユウ

ほら／＼そろつた、ねずみの子、ねずみのお歳暮、菓子ばこだ、ちよろりと三匹、おめでとチユウ、チユウ子にチユウ吉、チユウ三郎チユウ

（ロ）鼠の餅曳き　野口雨情作詞

親ねずみが、いつたとさ、みんなでお餅を、曳いて來な

子ねずみが、いつたとさ、お餅はおもくて曳けないな

親ねずみが、いつたとさ、エンヤラエンコと、曳いて來な

子ねずみが、いつたとさ、お餅はおもくて、こまつたな

（ハ）チウ／＼鼠　小學館編輯部作詞

チユー／＼ねずみの忠兵衞さん／＼けさもはよからくる／＼と車を廻して大汗かいて、そんなにかせいで何つくる

これは異なこと忠太郎さんや忠太郎さん、けさもはよから忠兵衞は車を廻して大汗かいて、お米ついた／＼一升五合ついた

（ニ）日の丸の歌　西條八十作詞

いつもながめて、うれしい旗は、もえる日の丸、日本の旗よ、春は春風、秋西の風、ゆれてなびいて海山照らす

きよい白地に、ま心赤く、そめたよい旗、世界に一つ、丸い形は、兄弟姉妹、みんな仲よい、日本のすがた

みれば仰げば、心が躍る、日本よい國、世界に一つ、君の御稜威の日の丸高く、空にかざして、勇んで進む（以下略）

二、（イ）皇太子さま　久保田宵二作詞　佐々木すぐる作曲　大川澄子

一、皇太子さま　皇太子さま　すく／＼お育ちなさるゆゑ　千代田のお城の松風も　うれしやロン／＼／＼

二、皇太子さま　皇太子さま　日ましに光が輝いて　お堀をとんでる白鳩も　うれしやラン／＼／＼　うれしやロン／＼／＼

三、皇太子さま　皇太子さま　ごらん下さい私たち　おかげで元氣なこのからだ　うれしやラン／＼／＼　うれしやロン／＼／＼

四、皇太子さま　皇太子さま　お聞き下さい波の音　南も北もひゞきわたる　うれしやラン／＼／＼　うれしやロン／＼／＼

（ロ）皇子さま　久保田宵二作詞　佐々木すぐる作曲

一、君が代は千代に八千代に　お生れなされた皇子さま　尊い吾等の皇子さま　山の小鳥も野邊の草も　さあみんなで祝ひませう

二、君が代は千代に八千代に　お生れなされた皇子さま　けだかい吾等の皇子さま　さゞれ小石も苔むすまでと　さあさみんなで歌ひませう

三、君が代は千代に、八千代に　お生れなされた皇子さま　お強い吾等の皇子さま　空もひゞけと喜びあげて　さあさみんなで踊りませう

（ハ）初日の出　西條八十作詞　佐々木すぐる作曲

一、めでたい／＼初日の出　海からのぼつた初日の出　萬歲となへてながめれば　日本の日の丸そつくりだ　萬歲々々おめでたう

二、のぼるよ／＼空高く　てらすよ／＼世界中　日本の國旗の日の丸が　萬歲々々おめでたう（以下略）

童話劇　午後六時

海上雲遠

大阪童話劇協會

欣一君と雪志子さんの兄妹、その兄妹のお家では、お母さんや姉さん、それから東京の學校から歸省していらつしやる兄さん、そのほか叔父さんや、叔母さんなどが茶の間に集まつて水入らずのカルタ會がはじまりました。その時『和田の原こぎ出て見れば久方の雲井にまがふ沖つしらなみ』の一首が此度のお勅題海上雲遠に打つてつけの歌であるがいとロになつて叔父さんがお勅題に因んで面白い物語りをなさいました

東西映畫スター　歌謠曲の競演　午後二時卅五分から

＝（東京）＝

一、新興キネマ　伴奏　新興キネマ管絃樂團

（一）立松晃　山の人氣者

山の人氣者、それはミルク屋、朝から夜まで唄をふりまく、牧場はひろ／＼、聲け朗らか、その節のよさけアルプスの華、娘といふ娘はユーレイテイ、ミルク賣りを慕ふユーレイテイ、ふら／＼とユーレイテイ、ミルク賣りを慕ふユーレイテイ、ユーレイ／＼テイ、さすがけのど自慢護い腕前、乳しぼるほかに招きよせて、娘たちをまどはせる

山のミルク屋け、いつも朗か、乳をしぼる間も、唄を忘れず、のどかな山彦丘より谷へ、アルプスの峰にこだまをかへす、娘といふ娘はユーレイテイ、ふら／＼とユーレイテイ、ミルク賣りを慕ふユーレイテイ、ユーレイ／＼テイ、乳しぼりが來れば、山の娘等、機織る手をやすめ、窓の外、通る唄に聞きほれる

（二）御影公子　何故笑ふモナ、リザ

何故笑ふモナ・リザ、ほゝえみのモナ・リザ、秘めた戀のとけるすがた、隱しきれない、よろこび、何故笑ふモナ・リザ、花は春ひらき、乙女はほゝえむ、わがゆめに、笑はしのひとよ

二、P・C・L　伴奏　P・C・Lオーケストラ

（一）神田千鶴子　（イ）ベテイブープ

銀のフリユートはピ、、、、と、鳴り響くベテイブープけブプツパデユ、と甘いこえ、古いバンジヨーはブラン／＼と月の下、ベテイブープはブアツバデユと甘いこえ

いつもウヰンク笑ふ瞳いつも、すましてなにか唄をうたふ、大太鼓けどんどんと鳴りわたる。ベテイブープはブプツパデユと甘い聲

（ロ）朝のコーヒー

朝のお目ざにやかかせない、ほんのり苦く素敵な香り、召しませよコーヒー召しませコーヒ、黑いガウンをさらりとぬいで、粉にひかれて私は行くよ、いつも戀する君のもとに、私の心はふれる君の唇に、それで御朝君は素敵に元氣ほんのり苦く素敵な香り、召しませよコーヒー、召しませ、コーヒー

（二）千葉早智子　野良の春

高い山から朝日が香るよ、のぼる朝日に黑土ふめば、若い心のホイトコ皿がをどる（ハ、ホイトコドツコイ、ホイトコナ）以下（）內同じ

南風吹きや新芽が香るよ、香る新芽に陽がキラキラと雛子すゞめもホイトコ鳴きにくる

伸びる新芽は黃金の花がよ、とてもうれしいお國の響だ、今日も笑顔でホイトコ野良かせぎ

黃金花ならお國の響よ、咲いてほがらなよい野良日和、若いおいらのホイトコ胸が鳴る

三、日活　伴奏　テイチクオーケストラ

（一）江川宇禮雄　酒の中から

盃にうつる灯りを飲み干して、今宵も唄はう我が友よ、樂しさけ酒の中から浮いてくる、酒の中から浮いてくる、この部屋に、涙なんかはありやしない、笑つて唄はう我が友よ、樂しさは酒の中から浮いてくる、酒の中から浮いてくる

（二）石井美笑子　起き上り小法師

泣いて嬰いちや駄目なのよ、涙のお顏は嫌ひなの（おきやがり小法師）けころんでも、笑つてすぐに起きるのよ　以下（）內同じ

雨が降るから崩れた日も、あるのをあなたは知つてるの

逃げた小鳥に追けないの、殘つたものを唄ふのよ

風が吹いたら葉が落ちる、步けばお腹がすくものよ

（三）江川宇禮雄　波止場がらすの歌

濃霧煙靄の中で、泣いて泣かせて夜を明かすけとばがらすを／＼誰か知る

船は出て行く煙はのこる、おれも行きたや星でさへ、親をしたらて泣くものを

四、松竹キネマ　伴奏　松竹管絃樂團

（一）松井潤子　お洒落しやれても

お洒落しやれてもやつしても、誰が乘るやら口車、嬲ひなやんだ娘氣に、明日はどのよな風が吹く

宵にタンゴ一踊り、更けりや碎けてセレナード、十九二十は花盛り戀に泣くよな夢ぢやない

お洒落しやれてもやつしても、旅すウインク空つぶて、逢ふて別れた身にしみる、ほろりさすよな歌調子

（二）若水絹子　浮世しぐれ

春は東海菜の花月夜、捨てた故鄕を夢に見る、秋け信濃路楢樹の肌く、峠越つを越えたやら

流離して草鞋ははけど、旅の鴉の笠一重、風に木の葉の散る音聞けば、またも涙が先に立つ

荒い言葉も、親分さんよ、御國なまりぢや許さんせ、一夜御宿をありがとさらば、浮世時雨に濡れて行く

（三）及川道子　木場の雨

木場の日暮れをそぼ降る雨は、戀は紺緞朱子の機、木やりくづしにほろりと泣いた、小町娘の置き襟

江戸の昔を紺地に白く、染めた戀の字模樣、粋な法被よ袴を流せ生木裂くよな仇流せ

なさけ深川浮名の辰巳、戀の机花よそに見る、木場は木の町いなせの町よ、度胸千兩と雨が降る

＝（大阪）＝

松竹下加茂　伴奏　松竹管絃樂團　高田浩吉

一、江戸みやげ子守唄

夜あけ雀がアレ騷ぐ、睡りをどりに來たのだろ

鼠の絹鳥やどの子が可愛い、なかぬ子どもはみな可愛い

可愛いけりやこそ聞れてゆくに、なくな夜鳥明鳥

一人信濃路けふ中仙道、明日はどの山越えるだろ

二、大江戸出世小唄

土手の柳は風まかせ、好なあの娘は口まかせ、エ、ションガイナ、ア、ションガイナ

きりようよいとてうぬぼれな、どうせ一度は散る花を、エ、風が吹く、ア、風が吹く

どうせ散るならこの俺に、なびく氣持ちはないかいな、エ、まゝならぬ、ア、まゝならぬ

無理になびけばそりや野暮よ、なびく時節が來るなれば、ア、上燗やせぬ、ア、燗やせぬ

三、しやぼん玉の唄

向ふ橫丁の風呂やの娘、今日もめかしてあひびきに、ほんに氣輕な口輕な、ヤレドツコイしやぼん玉ヨイトサツサ

誰に見しよとて紅かねつけて、晝の日中にゆくのやら、ほんに浮氣なうつり氣な、ヤレドツコイしやぼん玉ヨイトサツサ

ふわり／＼と浮いてはゐるが、しやぼん玉には糸がない、風のまにまに流れ行く、ヤレドツコイわしが身はヨイトサツサ

演藝案内

松竹座　本町三丁目　P・C・L　十二月三十一日封切　新春第一陣を承る最超特作興行　新生マキノトーキー超特作時代劇　晝夜二回興行　第一回後援記念オールトーキー　原作月形龍之介　國色山本正夫　監督マキノ正博　同久保爲義　撮影大森伊八　錄音映畫ラボラトリ　**江戸噺鼠小僧**　澤村國太郎　原駒子主演　太秦發聲映畫超特作現代喜劇　原作比月敏　監督吉海卓二　撮影河崎喜久三　錄音高岡三介　小林金雄　オールトーキー　**理想鄕の禿頭**　谷幹一　一ノ宮敦子　高橋豐子　永田靖助演　短篇名畫集　オールトーキー　**頭　君　か　代**　オールトーキー　朝日世界ニユース（八十五號）　トーキー漫畫　猫の留守　京活劇　コロムビア特作　珍設　防會社

化石人間　十分始夜七時始　ユニバーサル超特作大怪奇映畫　ロウエル・シヤーマン…監督　アラン・モウブレイ…主演　大都映畫超特作　大風雨時代劇　**劍雲龍虎篇**　白井戰太郎…監督作品　海江田讓二・月宮乙女主演　大都映畫特作現代劇大映畫笑篇　**ジヤく馬と坊や**　吉村操監督作品　佐久間妙子　伴淳三郎主演

朝日座　京城本町五丁目　電本三三六　元旦より晝夜二回興行　漫歲と新舞踊　**石川靜枝**　初春に笑ふ門に福來る笑へ朗らかド一九三六年を迎へて迎お正月は一家揃つて笑の殿堂へ　帝都玉木座に於て絕讚大好評の石川靜枝一派憧れの朝地上演に際して出し物も內地各都市にて好人氣のものを幕澤山元旦初日にて七日間晝夜二回是非一夕の御觀賞を乞ふ　石川靜枝十八種の內新作物　寄之丞變化十景　明治一代女三景　辨天娘女男白浪　濱松屋場　四場　幕一場　ヒル正十二時よりヨル六時より

浪花館　松竹映畫全鮮封切　明治町一　電本〇〇〇　謹賀新年　溌刺たる元氣！松竹昭和十一年お正月映畫の第一陣！新春は松竹映畫から！　卅一日より四日まで　晝夜三回上映午前十一時開演　東日大每連載小說の映畫化　長谷川伸原作　井上金太郎　監督作品　**識手繰り音頭**　阪東好太郎　月形龍之介　飯塚敏子　新春の御挨拶　迎春譜　林長二郎外下加茂幹部スター御挨拶！　蒲田オールトーキー謙談倶樂部連載「サア－公の罪」より映畫された　**せめて今宵を**　原作北村小松　監督島津保次郎　田中絹代　佐分利信　河村黎吉　小林十九二　小櫻葉子　上原謙　五日より九日までは蒲田さよなら記念映畫　**永久の愛**　オールスターキヤスト、新春は松竹映畫から！どこよりも面白いこの番組をごらん下さい！

中央館　新興キネマ專門封切　電本〇〇〇　卅一日大公開（新春第一週）　謹賀新年　顧りみますれば三五年安は實に吾か中央にとりきましては苦闘建設の結果！映畫界の常勝中央となりました記念すべき二週年であります所かる故本年度の中央か皆樣に捧げる雄大超特作品！御聲援の程伏して懇願する次第であります　蒲田特作ナンセンス　原作監督撮影　武富善雄、阿部正三郎、新井淳共演　**彌次喜多行進曲**　第一映畫より原駒子特別出演　永井柳太郎、中村政太郎、浦上君榮、鳳凰宗六共演　**流小唄月の出潮**　京都下加茂特作浪曲篇　柳川眞一　監督大曾根辰夫　原作細色　高田浩吉主演　オールトーキー　**吹けよ戀風**　蒲田特作明朗傑笑篇　原作細色北村小松　監督五所平之助　撮影小原譲二　小笠原章二郎主演　松竹下加茂撮影所特別應援　新興キネマ京都太秦大合同製作　原作佐々木味津三　監督二川文太郎　オールトーキー版　**右門捕物帖　花嫁地獄變**　嵐寛壽郎主演　田村邦男　荒木忍特別應援　松本田三郎　巨匠二川文太郎とはマキノ以來七年振りに復活した名コンビ！大江戸の闇を縫ふて躍る怪奇探偵の大雄篇　新興キネマ高田プロ合同作　高田プロ獨立記念超特作　原作村上浪三郎　監督牛原虛彦　オールトーキー　**急行列車**　高田稔大熱演　毎日晝夜三回興行

京城劇場　本町三丁目（電話本局一五一四番）　謹賀新年　正月元日より八日間　但し二日より五日迄晝夜二回興行　絢爛目を奪ふ大豪華版　輝く春の供覽今春唯一の黃金篇　**東京少女歌劇大公演**（上演題目）　1　漫畫レヴユー　一寸法師世界漫遊　鈴木康義作曲　八景　2　小唄レヴユー　仲谷一夫作曲　六景　3　史歌劇　4　大歌劇　中山吾雨作　二幕　5　レヴユトコント　一九三六年　十景　東京少女歌劇部

喜樂館　日活直營　京城本町一丁目　電本二六六　新春第二次超特別大興行　自一月五日至一月六日　午後一時開館　晝夜通し興行　中里介山居士著作　世界第一の文學の完全なるトーキー映畫化！映寫時間十一時・二時四五分・六時一〇分　最深最大の良心的巨篇遂いに封切！　ウエスタンエレクトリツク　オールトーキー　**大菩薩峠**　第一篇甲源一刀流の卷　◎萬相を具象し人生の流轉を描く大名篇　日活に依りて始めて完成さる　文藝映畫化　菊池寛原作　大谷俊夫監督作品　サウンド版　**望鄕の唄**　中野かほる、井染四郎、山本嘉一主演　映寫時間一時一〇分、八時一〇分　水郷に咲く純情哀調の青春ロマンス篇　映畫面を更に鮮明美化する整流裝置！　從來のプレー券は御氣の毒乍ら新春興行より御斷り申し上げます

團成社　鍾路三丁目　北光　電光〇〇〇　正月は樂しい面白い團成社へ　卅一日封切（四日迄）新春特別大興行　毎日三回　午前十時半　午後一時　六時半　◆MGM超特作映畫　新鋭ウヰリアム・ルウベン監督　チエスター・モリス主演　ライオネル・バリモア・ジーン・アーサー共演　**男性NO・I（ナンバワン）**　物凄さ無類、迫眞、スピード一切合切ナンバーワンづくめ！一〇〇メン！以上のGメン映畫はこれ！本年劈頭洋畫では是れが先づナンバーワン！　◆コロムビア社超特作映畫　巨匠ヴイクター・シエルテインゲル監督　名星グレース・ムーア主演　**歌の翼**　新鋭音樂形式に依るメロドラマチツクミユジカルの粹、映畫的に音樂的にこれ以上の完璧を極めたる演出なしと謂はるゝ最大傑作　◇日活超特作オールトーキー　池田富保作品　**佐渡情話**　尾上菊太郎　山田五十鈴主演

安くて面白い　**若草映畫劇場**　電本〇〇〇　新築落成！開館！　三十一日より一月三日迄特別公開　最上の設備と番組最低の料金大衆向二十錢均一、晝夜三回一、二回連續映寫一回十二時始二回二時三

朝鮮郵船出帆
（印ハ船客扱）

北鮮新潟連絡船　新京丸　總噸三、五六八噸　定員一等二十八名、二等四十二名　三等百三十八名

羅津　三ノ日　午前六時發
清津　三ノ日　午前八時着
雄基　三ノ日　午前九時發

清津　三ノ日　正午十二時着　午後五時發
新潟　五ノ日　七ノ日　正午十二時着　午前十一時發
清津　九ノ日　午前八時着　午前十一時發
羅津　九ノ日　午後二時着　午後五時發
雄基　九ノ日　午後七時着

北鮮滿洲直行　東京－阪神－關門－コース
△太海丸　羅津十二月三十日　雄基三日　清津一五日　釜山－關門－大阪－名古屋－淸水－橫濱寄港
北鮮東京行
△平京丸　雄基八日　淸津十日　元山十二日　關門－大阪－名古屋－淸水－橫濱寄港
○急行船　長壽山丸　雄基十三日　淸津十四日　元山十五日　關門－名古屋－橫濱寄港
西鮮東京行
△咸鏡丸　鎭南浦六日　仁川二日　木浦三日
原丸　鎭南浦六日　仁川三日　木浦二日
北鮮名古屋行
○陸軍運輸部御用船　立神丸　雄基六日　淸津七日　元山三日　釜山－博多－關門　阪神寄港
北鮮大阪行
金剛山丸　雄基七日　淸津八日　元山十日　釜山－博多－關門－神戸寄港
淸津丸
西鮮大阪行
雄基十五日　淸津十六日　元山十八日
○南部線　漢江丸　釜山－關門－神戸寄港　仁川十二日　群山十三日　木浦十四日
慶州丸　仁川六日　群山七日　木浦九日
○北部線　京城丸　博多直行－神戸寄港　鎭南浦六日　仁川八日　群山九日
新義州丸　鎭南浦日　仁川日
牧ノ島行　釜山丸　新舞鶴－舞鶴－宮津－境寄港
大連行
麗水丸　雄基二日　淸津三日　元山五日
鹿兒島、三角行　釜山－博多－長崎寄港
大連丸　仁川六日　群山七日　木浦八日
○博多直行船　錦江丸　大連二日　仁川四日　長崎寄港
西鮮淸津行
平安丸　仁川　日　釜山　日
北鮮上海、靑島行
平安丸　淸津　日　釜山　日
上海行　靑島碇泊－群山－木浦
平安丸
靑島行　長崎－芝罘－大連寄港－込海延
會寧丸　仁川三日　鎭南浦五日　釜山八日
大連行
錦江丸　仁川四日　鎭南浦五日
康島丸　仁川七日　鎭南浦八日

京城南大門通り五ノ一
朝鮮郵船株式會社
代表電話本局（2）四一九五番
元山支店　淸津支店　電話　二一〇番
仁川出張所　電話長二四二四番
北鮮出張員　電話長二八二番
京城代理店　（2）朝鮮運送會社
仁川代理店　朝鮮運送會社
群山代理店　朝鮮運送會社
木浦代理店　朝鮮運送會社
麗水代理店　大池回漕店
元山代理店　朝鮮運送支店
城津代理店　朝鮮運送支店
雄基代理店　朝鮮運送支店
羅津代理店　朝鮮運送支店
國際運輸支店

阿波共同汽船出帆

威海衛、芝罘、大連行
威海衛丸　一月卅一日午前　出帆　入港
威海衛、芝罘、大連行　第三共同丸　十六日　一月五日午後　出帆時間入港
鎭南浦、大連、天津行　長山丸　一月廿九日午後　出帆時間
一月廿日午前　入港

▲朝鮮鐵道連絡運輸取扱店　▲鐵道連絡貨物取扱　乘客切符發賣所　京城三越支店內　ジヤパンツーリストビユーロー　案內

代理店　仁川海岸町　**野口商會**　電話三三番・一七三番